



**Hewlett Packard**  
Enterprise

# HPE Intelligent Provisioning ユーザーガイド (HPE ProLiant Gen9 および Synergy サーバー向け)

## 摘要

このガイドでは、Intelligent Provisioning ソフトウェアにアクセスし、このソフトウェアを使用して OS のインストール、ファームウェア、ソフトウェア、およびドライバーの更新、および一部の診断テストの実行のような作業などを行う方法について説明します。Intelligent Provisioning は、Service Pack for ProLiant (SPP) に含まれている最適化されたサーバーサポートソフトウェアの一部です。このガイドは、ProLiant Gen9 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールを使用した経験がある管理者を対象としています。

部品番号: 794362-198b  
発行: 2017 年 5 月  
版数: 3

## ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピューター・ソフトウェア、コンピューター・ソフトウェア資料、および商用製品の技術情報は、ベンダー標準の商用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

## 商標

Microsoft® および Windows® は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Linux® は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Red Hat® は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

# 目次

<b>はじめに</b> .....	<b>7</b>
Intelligent Provisioning について.....	7
Intelligent Provisioning の動作.....	7
Intelligent Provisioning へのアクセス .....	8
Intelligent Provisioning でのナビゲーション .....	9
<b>初期設定および登録作業の完了</b> .....	<b>10</b>
初期構成および登録タスク.....	10
Intelligent Provisioning でインストールされるソフトウェア.....	10
手順 1 : Intelligent Provisioning 環境設定の設定.....	10
日付選択キーシーケンス .....	10
環境設定.....	11
手順 2 : Intelligent Provisioning のアクティベート.....	12
Intelligent Provisioning の再有効化.....	12
手順 3 : HPE リモートサポートに登録する.....	12
HPE 内蔵リモートサポート.....	12
デバイスサポート.....	13
HPE リモートサポートにより収集されるデータ.....	13
HPE プロアクティブケアサービス.....	14
リモートサポートの登録に関する前提条件.....	14
Insight Online Direct Connect の登録 .....	15
Insight Remote Support Central Connect の登録 .....	16
初期構成タスクおよび登録タスクの後の Remote Support への登録.....	17
Intelligent Provisioning の再インストール .....	18
ISO イメージからの再インストール.....	18
RPM パッケージからの再インストール (Linux のみ) .....	19
<b>サーバー構成と OS インストール</b> .....	<b>20</b>
サーバーの構成と OS のインストール.....	20
サーバーのサポートおよび特殊文字.....	20
各 OS に対してサポートされるソースメディアのタイプおよびインストール方法.....	20
SD カードのブートデバイスとしての使用.....	20
手順 1 : ハードウェア設定を選択.....	21
手順 2 : OS の選択.....	22
手順 3 : OS 情報の入力.....	26
推奨インストールに必要な OS 情報の入力.....	26
StoreVirtual VSA (Virtual Storage Appliance) ソフトウェアの使用.....	26
StoreVirtual VSA.....	27
StoreVirtual VSA のシステム要件.....	27
StoreVirtual VSA の展開.....	27
VSA 連絡先情報の入力.....	27
VSA の展開の完了.....	28
カスタマイズインストールに必要な OS 情報の入力.....	28
手順 4 : 設定のレビュー.....	29
インストールパラメーターの確認.....	29
VID の有効化.....	30

<b>メンテナンスの実行</b> .....	<b>31</b>
Active Health System データのダウンロード .....	31
アクティブヘルスシステムビューアにログインする.....	32
AHVS への AHS ログのアップロード.....	32
Intelligent Provisioning およびコンポーネントファームウェアの更新 .....	33
インストールされている Intelligent Provisioning のバージョンの判定.....	34
Intelligent Provisioning 環境設定 .....	34
展開設定の使用 .....	34
展開設定パッケージの作成.....	35
展開設定パッケージを使用した単一サーバーの構成.....	35
展開設定パッケージレベルの操作の実行.....	36
展開設定パッケージの個々の設定の入力または変更.....	37
バージョン情報の入力.....	37
ファームウェア更新設定の入力.....	37
アレイ構成設定の入力.....	37
オペレーティングシステム情報の入力.....	38
リモートサポート情報の入力.....	39
ROM 設定の入力.....	39
システムオプションの入力.....	39
HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) の使用 .....	40
HPE SSA の機能.....	40
HPE SSA へのアクセス.....	40
構成.....	40
診断/SmartSSD.....	41
Insight Diagnostics の使用 .....	41
Insight Diagnostics.....	41
Insight Diagnostics へのアクセス.....	42
クイック構成の使用 .....	42
Intelligent Provisioning クイック構成設定と対応する UEFI システムユーティリティ 設定.....	43
iLO 設定ユーティリティの使用 .....	44
iLO の概要情報の表示.....	44
iLO のアクセス設定の編集.....	45
iLO 管理設定の編集.....	48
ネットワークインターフェイス設定の編集.....	49
ユーザー管理の編集.....	53
iLO のリセット.....	54
HPE Remote Support の使用 .....	54
HPE リモートサポートの登録解除.....	55
Insight Online Direct Connect の登録解除 .....	55
Insight Remote Support Central Connect からの登録解除 .....	55
Web プロキシ設定の編集 (Insight Online Direct Connect のみ) .....	55
ライセンス管理の使用 .....	56
消去ユーティリティの使用 .....	56
消去ユーティリティのオプション.....	56
消去ユーティリティへのアクセス.....	57
完全消去の使用.....	57
<b>高度なトピック</b> .....	<b>59</b>
Intelligent Provisioning アップデートミラーの作成のために提供されているスクリプトの 使用 .....	59
Intelligent Provisioning アップデートミラーの作成 .....	59
HPE USB Key Utility の使用.....	62

USB Key Utility の使用.....	62
前提条件.....	63
起動可能な USB キーの作成.....	63
<b>トラブルシューティング.....</b>	<b>65</b>
トラブルシューティングの基本的な手法.....	65
一般的な問題のトラブルシューティング.....	65
プロファイル展開時のインストールの中断.....	65
UEFI モードで起動できない.....	65
AHS ダウンロードユーティリティで AHS ログがダウンロードされない.....	65
HPE SSA にアクセスできない.....	66
OS 推奨の DVD が手動インストールとして機能する.....	66
システム情報ページに情報が表示されない.....	66
完全消去に対して、Active Health System (AHS) ログオプションが選択される.....	67
SD カードを使用したインストールに失敗する.....	67
F10 キーを押しても Intelligent Provisioning が起動しない.....	67
Windows 固有の問題のトラブルシューティング.....	68
Microsoft Hyper-V Server 2012 R2 のインストールに失敗する.....	68
Windows のインストールに失敗する.....	68
インテグレートッドマネジメントログ (IML) が生成されない.....	68
Microsoft Hyper-V Server 2012 のインストールに失敗する.....	69
System Management Homepage に情報が表示されない.....	69
Linux 固有の問題のトラブルシューティング.....	69
SUSE Linux Enterprise Server 12 の手動インストールに失敗する.....	69
SUSE Linux Enterprise Server 12 のインストールが停止する.....	69
Linux x86_64 でファームウェアの更新に失敗する.....	70
Red Hat OS をブラウザできない.....	70
Red Hat Enterprise Linux 6 の推奨インストールを続行できない.....	70
Red Hat OS の推奨インストールがハングする.....	71
レガシ BIOS モードの場合に SUSE Linux Enterprise Server 12 の手動インストールが失敗する.....	71
VMware 固有の問題のトラブルシューティング.....	71
ESXi のカスタムインストール中に、続行の矢印が表示されない.....	71
VMware の推奨インストール中にサーバーが再起動する.....	72
VMware ESXi カスタムイメージのインストール.....	72
複数のコントローラーを搭載するシステムで、VMware ESXi のインストールに失敗する.....	72
HPE Synergy 固有の問題のトラブルシューティング.....	73
Intelligent Provisioning で、メンテナンスタスクを実行できない.....	73
リソースを HPE OneView で管理している場合、Intelligent Provisioning を使用した構成を行えない.....	73
HPE OneView から Intelligent Provisioning を起動できない.....	73
HPE Synergy がネットワーク共有または FTP サーバーに接続できない.....	74
HPE Synergy コンピュートモジュールで、iLO、Erase、IRS、AHSD、およびファームウェアの更新の機能が機能しない.....	74
カスタマーアドバイザリ.....	74
Intelligent Provisioning のリカバリ.....	74
<b>Web サイト.....</b>	<b>76</b>
<b>サポートと他のリソース.....</b>	<b>77</b>
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	77
アップデートへのアクセス.....	77

カスタマーセルフリペア (CSR) .....	78
リモートサポート (HPE 通報サービス) .....	78
保証情報.....	78
規定に関する情報.....	78
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	79

<b>用語集 .....</b>	<b>80</b>
------------------	-----------

# はじめに



## ヒント:

このガイドの情報は、ProLiant Gen9 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールで Intelligent Provisioning を使用するためのものです。ProLiant Gen8 サーバーで Intelligent Provisioning を使用する場合は、Information Library (<http://www.hpe.com/info/intelligentprovisioning/docs>) で入手可能な ProLiant Gen8 サーバー用の Intelligent Provisioning のユーザーガイドを参照してください。

## Intelligent Provisioning について

Intelligent Provisioning は、ProLiant Gen9 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールに組み込まれた単一サーバー展開ツールであり、ProLiant サーバーの以前の世代で使用されていた SmartStart CD や Smart Update Firmware DVD に代わる機能です。Intelligent Provisioning によって、サーバーのセットアップがシンプルになり、信頼性が高く一貫した方法でサーバーを展開できます。

Intelligent Provisioning は、使用許諾されたベンダーのオリジナルメディアおよび Hewlett Packard Enterprise ブランドバージョンの OS ソフトウェアをシステムにインストールし、Service Pack for ProLiant (SPP) から最適化されたサーバーサポートソフトウェアを統合します。SPP は、ProLiant サーバーとサーバーブレードおよびそれらのサーバーを収納するエンクロージャー、ならびに HPE Synergy コンピュートモジュール向けの包括的なシステムソフトウェアおよびファームウェアソリューションです。ProLiant Gen9 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールには、ファームウェアコンポーネントと OS コンポーネントの基本的なセットがプリロードされています。これらのコンポーネントは、Intelligent Provisioning 2.xx とともにインストールされます。

サーバーの実行後、ファームウェアをアップデートすると、追加コンポーネントをインストールし、サーバーの製造時の古いコンポーネントをアップデートできます。

## Intelligent Provisioning の動作

ProLiant Gen9 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュール向け Intelligent Provisioning には、次のコンポーネントが含まれます。

- ProLiant サーバー用のクリティカルブートドライバー
- Active Health System (AHS)
- StoreVirtual Virtual Storage Appliance (VSA)

### ❗ 重要:

- ProLiant Gen9 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールには、ファームウェアおよびドライバーがプリロードされていますが、初期セットアップ時にファームウェアを更新して、最新のバージョンに保つようにしてください。また、Intelligent Provisioning の最新バージョンをダウンロードおよびアップデートすると、サポートされる最新機能を利用できます。
- ProLiant サーバーでは、ファームウェアは Intelligent Provisioning のファームウェアの更新ユーティリティを使用してアップデートされます。
- HPE Synergy コンピュートモジュールでは、ファームウェアは HPE OneView を使用して更新します。
- 現在使用中のバージョンとの互換性が必要な場合は、ファームウェアのアップデートを実行しないでください。

---

## 注記:

Intelligent Provisioning は、マルチホーム構成内では機能しません。マルチホームホストとは、複数のネットワークに接続されているか、複数の IP アドレスを持っているホストです。

---

Intelligent Provisioning は、次のオペレーティングシステムのインストールをサポートします。

- Microsoft Windows Server 2008 R2 SP 1、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、および Windows Nano Server 2016
- Red Hat Enterprise Linux
- SUSE Linux Enterprise Server
- VMware ESXi/vSphere カスタムイメージ
- ClearOS from HPE

OS のすべてのバージョンがサポートされているわけではありません。ProLiant Gen9 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールに対してサポートされる OS について詳しくは、ProLiant サーバー用のオペレーティングシステムおよび仮想化ソフトウェアサポートを参照してください。

# Intelligent Provisioning へのアクセス

## 手順

1. オプション：サーバーにリモートアクセスする場合、iLO リモートコンソールセッションを開始します。
  - a. ブラウザーを開き、`https://<iLO host name or IP address>`と入力して、iLO の Web インターフェイスにログインします。
  - b. ログインページで、次のいずれかの操作を行います。
    - ディレクトリまたはローカルユーザーアカウント名とパスワードを入力して、**ログイン**をクリックします。
    - **Zero サインイン**ボタンをクリックします。このボタンは、iLO が Kerberos ネットワーク認証用に構成されている場合にのみ表示されます。
  - c. **リモートコンソール**→**リモートコンソールページ**に移動します。
  - d. ご利用のシステムが、使用するリモートコンソールアプリケーションの使用要件を満たしていることを確認します。
  - e. 選択したアプリケーションの起動ボタンをクリックします。  
または、**概要**ページの統合リモートコンソールリンクをクリックします。
2. サーバーを再起動するかまたは電源を入れます。  
サーバーが再起動し、ProLiant の POST 画面が表示されます。
3. サーバーの POST の実行中にプロンプトが表示されたら、**F10** キーを押します。

Intelligent Provisioning にアクセスすると、次のいずれかになります。

- 初めて Intelligent Provisioning を使用する場合は、画面に表示される指示に従って初期構成および登録タスクを実行します。
- すでに Intelligent Provisioning にアクセスして初期構成および登録タスクが完了している場合は、Intelligent Provisioning のホームページが表示されます。ホーム画面で、次のいずれかのオプションを選択して Intelligent Provisioning を使用します。

- **構成とインストール**

---

**注記:** 構成とインストールオプションは、ProLiant SL、SE、および XL サーバーでは使用できません (ProLiant XL420 Gen9 サーバーを除く)。

---

- **メンテナンスの実行**









Intelligent Provisioning を終了するには、ページ右上の電源アイコンをクリックしてサーバーを再起動してください。

## Intelligent Provisioning でのナビゲーション

このメニュー形式のインターフェイスを操作し、設定を変更するには、Intelligent Provisioning ウィンドウの左下および右下に表示されるナビゲーションアイコンを使用します。

これらの操作アイコンは画面ごとに異なり、すべての画面に表示されるわけではありません。

アイコン	機能
ホーム 	<b>構成とインストールおよびメンテナンスの実行メニュー</b> がある Intelligent Provisioning のホームページに戻ります。このアイコンは、初期構成および登録作業の完了後に使用できるようになります。
ヘルプ 	オンラインヘルプを開き、現在の画面に関するセクションまで移動します。
システム情報 	Intelligent Provisioning のバージョンを含むシステム情報を表示します。
電源 	サーバーの電源を切るか、サーバーを再起動します。
前の手順 	選択を確認し、保存した後に前の画面に戻ります。
続ける 	選択を確認し、保存した後に次の画面に進みます。

# 初期設定および登録作業の完了

Intelligent Provisioning を初めて使用するときは、画面に表示される指示に従って初期構成および登録タスクを実行してください。

## 初期構成および登録タスク

初期構成および登録には、以下のタスクが含まれます。

### 手順

1. **手順 1 : Intelligent Provisioning 環境設定の設定**(10 ページ)
2. **手順 2 : Intelligent Provisioning のアクティベート**(12 ページ)
3. **手順 3 : HPE リモートサポートに登録する**(12 ページ)

## Intelligent Provisioning でインストールされるソフトウェア

Windows システムがインターネット接続のある Intelligent Provisioning を使用してインストールされると、すべてのソフトウェアアプリケーションは自動的にダウンロードされ、インストールされます。その他のオペレーティングシステム、またはインターネット接続のない Windows システムでは、Intelligent Provisioning のインストール時に以下のアプリケーションは自動的にインストールされません。これらは SPP を実行してインストールできます。

- HPE ProLiant Agentless Management Service (AMS)
- HPE Network Configuration Utility for Windows
- HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA)
- HPE Lights-Out Online Configuration ユーティリティ
- Insight Diagnostics

## 手順 1 : Intelligent Provisioning 環境設定の設定

環境の設定画面は、サーバーで Intelligent Provisioning を初めて実行するときに自動的に表示されます。

### 日付選択キーシーケンス

日付を選択する場合は、次のキーシーケンスを使用できます。

- **PAGE UP** - 前の月を選択します。
- **PAGE DOWN** - 次の月を選択します。
- **CTRL + PAGE UP** - 前の年を選択します。
- **CTRL + PAGE DOWN** - 次の年を選択します。
- **CTRL + HOME** - 日付セレクターが閉じている場合、日付セレクターオプションにカーソルを当て、これらのキーを押して開きます。
- **CTRL/COMMAND + HOME** - 現在の月を選択します。
- **CTRL/COMMAND + LEFT** - 前の日を選択します。
- **CTRL/COMMAND + RIGHT** - 次の日を選択します。
- **CTRL/COMMAND + UP** - 前の週を選択します。
- **CTRL/COMMAND + DOWN** - 次の週を選択します。
- **ENTER** - フォーカスされた日付を選択します。
- **CTRL/COMMAND + END** - 日付セレクターを閉じて、日付を消去します。
- **ESCAPE** - 選択を行わずに、日付セレクターを閉じます。

# 環境設定

## 手順

1. インターフェイス言語とキーボード言語を選択します。
2. システムの日付と時刻が正確なことを確認してください。
3. 日付や時間を変更するには、表示された日付と時刻をクリックし、表示されたカレンダーまたはクロックを使用して新しい値を選択してください。
4. エンドユーザー使用許諾契約書 (EULA) を読みます。
  - a. インテリジェントプロビジョニングの使用を継続するには、**同意する**をクリックしてください。

EULA に含まれるものは、サードパーティによって開発または取得されたオープンソースおよび専有のソフトウェアの一覧が含まれる補助ソフトウェアへのリンクです。EULA ではこのリンクも他のすべてのリンクも有効になっていませんが、ブラウザに入力するとアクセスできます。
  - b. Intelligent Provisioning の使用を取り消すには、**再起動**をクリックしてユーティリティを終了し、サーバーを再起動します。インテリジェントプロビジョニングはアクセス可能なままです。
5. ネットワーク設定を入力します。
6. リストからアクティブ NIC を選択し、次のいずれかの IP アドレス方式を選択します。
  - a. **DHCP の自動構成** - DHCP を選択して、IP アドレスを自動的にサーバーに割り当てることをおすすめます。
  - b. **静的 IPv4** - IPv4 を選択すると、4 つの新しいフィールド (静的 IPv4 アドレス、ネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、および DNS アドレス) が追加されます。
  - c. **静的 IPv6** - IPv6 を選択すると、2 つのフィールド (静的 IP アドレスとゲートウェイアドレス) が追加されます。
7. プロキシを使用するかどうかを指定します。ネットワークにプロキシを持つ場合は、ネットワーク上で通信する機能を用いて設定する必要があります。 **プロキシを使用**を選択した場合、**プロキシアドレス**および**ポート**を入力します。

---

### 注記:

プロキシアドレスの一部として http://を入力しても、http://はアドレスから削除されるため、アドレスは VSA スクリプトで正常に作動します。

---

8. iLO ネットワーク設定を入力します。
9. 次のいずれかの iLO ネットワーク IP アドレス方式を選択します。
  - a. **DHCP の自動構成** - DHCP を選択して、IP アドレスを自動的にサーバーに割り当てることをおすすめます。
  - b. **静的 IPv4** - IPv4 を選択すると、4 つの新しいフィールド (静的 IPv4 アドレス、ネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、および DNS アドレス) が追加されます。
  - c. **オフ** - オフを選択すると、このサーバーが iLO から利用できなくなります。
10. iLO の使用について詳しくは、iLO 4 のユーザーガイド (Web サイト <http://www.hpe.com/info/ilo/docs>) を参照してください。
11. Intelligent Provisioning 向けのシステムソフトウェアのアップデートの配信オプションを選択します。
  - a. **HPE ウェブサイト** - アップデートが使用可能になったときに通知を受信し、サーバー用のすべてのソフトウェアアップデートを hpe.com からダウンロードするには、このオプションを選択することをおすすめます。
  - b. **HTTP/FTP** - プロンプトが表示されたら、URL フィールドにアドレスを入力します。
  - c. **無効** - システムソフトウェア手動更新する場合、これを選択して自動更新を無効にします。
12. 正しい**タイムゾーン**を選択します。
13. 必要に応じた**システムブートモード**を選択します。

---

**注記:**

システムブートモードの変更は、OS インストールプロセス中または次の POST の中で行われます。

- 
14. **続行**右矢印をクリックすると、自動的に**手順 2 : Intelligent Provisioning のアクティベート**(12 ページ)に進みます。

---

**注記:** 後でこの画面にアクセスして環境設定を変更するには、**メンテナンスの実行メニュー**を開き、**Intelligent Provisioning 環境設定**をクリックします。

---

## 手順 2 : Intelligent Provisioning のアクティベート

Intelligent Provisioning に初めてログインすると、環境設定の設定画面の後にアクティベーション画面が表示できるようになります。

Intelligent Provisioning をアクティブにし、サーバーの POST 実行時に使用できるようにするには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. **有効にする (推奨)** を選択します。
2. **続行**右矢印をクリックすると、自動的に**手順 3 : HPE リモートサポートに登録する**(12 ページ)に進みます。

### Intelligent Provisioning の無効化

- **無効にする (非推奨)** を選択します。
- **続行**右矢印をクリックします。サーバーが再起動します。POST 実行中、画面では **F10** が赤色のテキストで表示され、**F10** キーが無効で Intelligent Provisioning にアクセスできないことを示します。

## Intelligent Provisioning の再有効化

### 手順

1. サーバーを再起動し、プロンプトが表示されたら、**F9** キーを押して UEFI システムユーティリティにアクセスします。
2. システムユーティリティの画面で、**システム構成 > BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) > サーバーセキュリティ > Intelligent Provisioning (F10 プロンプト)** を選択し、**Enter** キーを押します。
3. **有効**を選択します。

UEFI システムユーティリティについて詳しくは、HPE UEFI システムユーティリティユーザーガイド ([http://www.hpe.com/support/UEFIGen9\\_UG\\_ja](http://www.hpe.com/support/UEFIGen9_UG_ja)) を参照してください。

## 手順 3 : HPE リモートサポートに登録する

### HPE 内蔵リモートサポート

Intelligent Provisioning には、Embedded Remote Support の機能が含まれており、この機能により、サポート対象サーバーを HPE Remote Support に登録することができます。

サーバーを Hewlett Packard Enterprise に接続することで、それらをリモートでサポートします。また、診断、構成、テレメトリー、および連絡先の情報を送信できます。その他のビジネス情報は収集されません。またデータは Hewlett Packard Enterprise Privacy Statement (<http://www.hpe.com/info/privacy> で確認できます) に従って管理されます。

内蔵リモートサポート機能を使用する場合は、次の構成オプションから選択します。

## Insight Online Direct Connect

サーバーを Insight Online に直接登録します。ローカル環境に Insight Remote Support の一元化されたホスティングデバイスをセットアップする必要はありません。Insight Online は、リモートサポート情報のプライマリインターフェイスとなります。

Insight Online は、リモート監視対象のデバイスをいつでもどこでも表示できる、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの機能です。Insight Online は、外出時の監視用モバイルダッシュボードを含む個別化されたダッシュボードを提供し、IT の動作とサポート情報の追跡を簡素化します。

## Insight Remote Support Central Connect

サーバーを、ローカル環境の一元化された Insight Remote Support ホストサーバーを使用して Hewlett Packard Enterprise に登録します。すべての構成およびサービスイベント情報は、ホストサーバーを介してルーティングされます。この情報は、ローカルの Insight RS Console または Insight Online の Web ベースのビュー（Insight RS で有効になっている場合）を使用して表示できます。

## デバイスサポート

内蔵リモートサポートの登録は、以下のデバイスタイプをサポートしています。

### Insight Online Direct Connect

- ProLiant Gen8 サーバー
- ProLiant Gen9 サーバー

### Insight Remote Support Central Connect

- ProLiant Gen8 サーバー
- ProLiant Gen9 サーバー

HPE OneView を使用してご利用の環境を管理する場合は、HPE OneView を使用してリモートサポートを登録します。詳しくは、HPE OneView ユーザーガイドを参照してください。

## HPE リモートサポートにより収集されるデータ

サーバーがリモートサポートに登録されると、iLO は Active Health System がサーバー設定の情報を収集し、iLO または Insight RS ホストサーバーがこの情報を Hewlett Packard Enterprise に送信します。Active Health System 情報は 7 日ごとに送信され、設定情報は 30 日ごとに送信されます。以下の情報が含まれます。

- **登録** - サーバーの登録中に、iLO がサーバーハードウェアを一意に識別するデータを収集します。登録データには、以下の情報が含まれます。
  - サーバーモデル
  - シリアル番号
  - iLO NIC アドレス
- **サービスイベント** - サービスイベントが記録されると、iLO は、関連するハードウェアコンポーネントを一意に識別するためのデータを収集します。サービスイベントデータには、以下の情報が含まれます。
  - サーバーモデル
  - シリアル番号
  - ハードウェアコンポーネントのパーツ番号
  - 説明、場所、およびハードウェアコンポーネントを識別するその他の特徴
- **構成** - データの収集で、iLO は、プロアクティブなアドバイスとコンサルティングを可能にするためのデータを収集します。構成データには、以下の情報が含まれます。
  - サーバーモデル
  - シリアル番号
  - プロセッサモデル、速度、および使用率
  - ストレージ容量、速度、および使用率

- メモリ容量、速度、および使用率
- ファームウェア/BIOS
- インストールされているドライバー、サービス、およびアプリケーション（AMS がインストールされている場合）
- **Active Health System**— データの収集、iLO は、サーバーの健全性、構成、およびランタイムテレメトリーに関するデータを収集します。この情報は、問題のトラブルシューティングおよび閉ループ品質分析に使用されます。

データ収集について詳しくは、iLO のユーザーガイドを参照してください。

## HPE プロアクティブケアサービス

HPE プロアクティブケアサービスのお客様は、サーバーをリモートサポート対象に登録して、プロアクティブケア機能（プロアクティブスキャンレポートおよびファームウェアとソフトウェアのバージョンレポート）を受信する必要があります。

- Direct Connect オプションでは、AMS のインストールが必要です。
- Central Connect オプションでは、AMS または SNMP/WBEM エージェントのインストールが必要です。

詳細については、次の Web サイトを参照してください。 <http://www.hpe.com/services/proactivecarecentral>

## リモートサポートの登録に関する前提条件

### 手順

1. サーバーは、Intelligent Provisioning を介して内蔵リモートサポートの登録をサポートしています。
2. ご使用の環境は、リモートサポートの登録要件を満たす必要があります。  
詳しくは、以下の HPE の Web サイトにある ProLiant サーバーおよび BladeSystem c-Class エンクロージャー用 Insight Remote Support および Insight Online セットアップガイドを参照してください。  
<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>。
3. インテリジェントプロビジョニングのサポート対象バージョンがインストールされている。  
Remote Support への登録には、バージョン 2.01 以降が必要です。
4. iLO が以下のように構成されている。  
**サブステップを参照してください**  
iLO の構成について詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
  - a. iLO ファームウェアのサポート対象バージョンがインストールされている。  
他社製ソフトウェアの脆弱性に対応するために、iLO 4 2.03 以降の使用をおすすめします。
  - b. タイムゾーンが iLO で設定されている。
  - c. DNS サーバーが iLO に構成されている。  
これは、iLO および Insight Online 間の通信に必要です。
5. Insight Remote Support Central Connect のみ：Insight RS ソフトウェアのサポートされるバージョンが Insight RS ホストサーバーにインストールされ、構成されている。
6. Insight Remote Support Central Connect のみ：サーバーの RIBCL プロトコル認証情報が Insight RS Console で設定されている。  
RIBCL プロトコル認証情報について詳しくは、Insight Remote Support のインストール/コンフィギュレーションガイドを参照してください。

## Insight Online Direct Connect の登録

Insight Online Direct Connect に登録している場合は、Intelligent Provisioning と Insight Online ポータルの両方で手順を完了する必要があります。

### Insight Online Direct Connect の登録（ステップ 1）

#### 始める前に

- ご使用の環境が Insight Online Direct Connect の登録の前提条件を満たしている。
- HPE パスポートアカウントがあります。詳しくは、<http://www.hpe.com/info/insightonline-ja> を参照してください。

#### 手順

1. Intelligent Provisioning の初期構成および登録タスクの手順 1 および手順 2 が完了すると、リモートサポート登録ページが開きます。このページは、**メンテナンスの実行ページ**に移動するとすぐに開きます。
2. **Hewlett Packard Enterprise に接続する**ウィンドウが、初期設定および登録タスクの前のステップで表示されていない場合は、Intelligent Provisioning の**メンテナンスの実行ページ**に移動してから、**HPE Insight Remote Support** を選択します。
3. このサーバーを**直接 HPE に接続**を選択します。
4. HPE パスポートのユーザー ID とパスワードを入力します。
5. オプション: サーバーがインターネットへのアクセスに Web プロキシサーバーを使用する場合、**Show proxy information** をクリックして、次の情報を入力します。
  - a. **Web プロキシサーバー**
    - ホスト名または IP アドレスを入力します。
  - b. **Web プロキシポート**
  - c. **Web プロキシユーザー名**
  - d. **Web プロキシパスワード**
6. **登録**をクリックします。
7. Intelligent Provisioning によって、登録プロセスの手順 1 が終了したことが通知され、手順 2 を実行するよう求めるプロンプトが表示されます。
8. 登録要求が完全に処理されるまで、最大 5 分間待ってください。

### Insight Online Direct Connect の登録（手順 2）

- Insight Online の Web サイト (<http://www.hpe.com/info/insightonline-ja>) に移動し、HPE パスポートの認証情報を使用してログインします。
- Hewlett Packard Enterprise がお客様のサーバーに対してサービスを提供できるように、Insight Online で画面上の指示に従って、サイト、担当者、およびパートナー情報を入力します。
- 複数のサーバーがある場合は、処理を合理化するために、1 つの Insight Online セッション中に、すべてのサーバーでステップ 1 を完了させてから、すべてのサーバーでステップ 2 を完了させます。
- 手順については、ProLiant サーバーおよび BladeSystem c-Class エンクロージャー用 Insight Remote Support および Insight Online のセットアップガイドを参照してください。

#### 登録が完了していることの確認

- Intelligent Provisioning の Remote Support への登録ページに戻って、**確認**をクリックします。
- Intelligent Provisioning によって、登録プロセスが終了したことが通知されます。
- **続行**の右矢印をクリックすると、Intelligent Provisioning のホームページに進みます。

#### 登録後の手順の完了

リモートサポートの操作を正常に行うために、システムソフトウェアをインストールした後に次の手順を完了してください。

- オプション：サーバーのオペレーティングシステムが実行中であること、および AMS がインストールされていることを確認します。
- AMS をインストールすることをおすすめします。詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
- Intelligent Provisioning の**推奨**インストール方法で Windows をインストールすると、AMS は自動的にインストールされます。
- プロアクティブケアのお客様のみ：プロアクティブケアサービスの機能（プロアクティブスキャンレポートおよびファームウェアとソフトウェアのバージョンレポート）を取得するには、AMS のインストールが必要です。
- AMS の使用は、iLO がサーバーの名前を取得できる 1 つの方法です。iLO がサーバー名を取得できない場合、Insight Online と Insight RS に表示されるサーバー名は、サーバーのシリアル番号から得られます。
- AMS をインストールしなかった場合、Insight Online と Insight RS でサーバー名が正しく表示されることを確認するために、以下のいずれかを実行します。
  - Windows システムの場合のみ、オペレーティングシステムを起動します。Insight Online と Insight RS は、Windows コンピューター名を使用してサーバーを識別します。
  - iLO Web インターフェイスの**管理 > アクセス設定**ページで、**サーバー名**を構成します。  
 プライバシーを保護するため、ProLiant サーバーの名前に機密情報を使用しないでください。サーバーをリモートサポートに登録すると、Insight Online および Insight RS にサーバー名が表示されます。
- ProLiant iLO 3/4 チャネルインターフェイスドライバーがインストールされていることを確認します。
- Intelligent Provisioning の**推奨**インストール方法で Windows をインストールすると、このドライバーは自動的にインストールされます。
- このドライバーは SUSE Linux Enterprise Server 11 および 12、Red Hat Enterprise Linux 6 および 7 に標準で付属するものであり、自動的にロードされます。
- 詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
- オプション：システムイベントに関する電子メールアラートを受け取る場合は、iLO の**管理 > マネジメント > アラートメール**ページでアラートメールを構成してください。
- 詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。

## Insight Remote Support Central Connect の登録

### Insight Remote Support Central Connect の登録

#### 始める前に

ご使用の環境が**リモートサポートの登録に関する前提条件**(14 ページ)で説明されている前提条件を満たしていることを確認します。

#### 手順

1. Intelligent Provisioning の初期構成および登録タスクの手順 1 および手順 2 が完了すると、リモートサポート登録ページが開きます。このページは、**メンテナンスの実行**ページに移動するとすぐに開きます。
2. **Hewlett Packard Enterprise に接続する**ウィンドウが、初期設定および登録タスクの前のステップで表示されていない場合は、Intelligent Provisioning の**メンテナンスの実行**ページに移動してから、**HPE Insight Remote Support** を選択します。
3. このサーバーを**自分の接続済み製品ホストサーバー**を介して**接続します**を選択します。
4. ホストサーバーのホスト名または IP アドレスおよびポート番号を入力します。
5. デフォルトポートは 7906 です。
6. **登録**をクリックします。
7. Intelligent Provisioning によって、登録プロセスが終了したことが通知されます。
8. **続行**の右矢印をクリックすると、Intelligent Provisioning のホームページに進みます。



## 登録後の手順の完了

リモートサポートの操作を正常に行うために、システムソフトウェアをインストールした後に次の手順を完了してください。

- オプション：サーバーのオペレーティングシステムが実行中であること、および AMS がインストールされていることを確認します。
- AMS をインストールすることをおすすめします。詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
- Intelligent Provisioning の**推奨**インストール方法で Windows をインストールすると、AMS は自動的にインストールされます。
- プロアクティブケアのお客様のみ：プロアクティブケアサービスの機能（プロアクティブスキャンレポートおよびファームウェアとソフトウェアのバージョンレポート）を取得するには、AMS のインストールが必要です。
- AMS の使用は、iLO がサーバーの名前を取得できる 1 つの方法です。iLO がサーバー名を取得できない場合、Insight Online と Insight RS に表示されるサーバー名は、サーバーのシリアル番号から得られます。
- AMS をインストールしなかった場合、Insight Online と Insight RS でサーバー名が正しく表示されることを確認するために、以下のいずれかを実行します。
  - Windows システムの場合のみ、オペレーティングシステムを起動します。Insight Online と Insight RS は、サーバーを識別するために、Windows コンピューター名を使用します。
  - iLO Web インターフェイスの**管理 > アクセス設定**ページで、**サーバー名**を構成します。  
プライバシーを保護するため、ProLiant サーバーの名前に機密情報を使用しないでください。サーバーをリモートサポートに登録すると、Insight Online および Insight RS にサーバー名が表示されます。
- ProLiant iLO 3/4 チャンネルインターフェイスドライバーがインストールされていることを確認します。
- Intelligent Provisioning の**推奨**インストール方法で Windows をインストールすると、このドライバーは自動的にインストールされます。
- このドライバーは SUSE Linux Enterprise Server 11 および 12、Red Hat Enterprise Linux 6 および 7 に標準で付属するものであり、自動的にロードされます。
- 詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。

## 初期構成タスクおよび登録タスクの後の Remote Support への登録

初期構成および登録タスクの後でこのサーバーを Remote Support に登録する場合は、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. 登録ページで**後で登録**を選択します。
2. **続行**右矢印をクリックします。
3. このサーバーを Remote Support に登録する準備ができたなら、**メンテナンスの実行画面**に移動し、**HPE Insight Remote Support**を選択します。
4. 登録手順について詳しくは、**Insight Online Direct Connect の登録** (15 ページ)および **Insight Remote Support Central Connect の登録** (16 ページ)を参照してください。

# Intelligent Provisioning の再インストール

---

## 注記:

HPE Web サイトの変更およびファームウェアアップデートプロセスは、1.63 (Gen8) および 2.50 (Gen9) 以下のバージョンの場合、ファームウェアアップデートでタイムアウトが発生します。hp.com に関連付けられた古い Web サイトが廃止されており、Intelligent Provisioning はアップデートを見つけられません。

古いインストールは、Intelligent Provisioning Recovery DVD で更新できます。

---

ファームウェアの更新ユーティリティを使用する代わりに Intelligent Provisioning を再インストールして、システムに最新のバージョンを搭載できます。Intelligent Provisioning の再インストールには、2 つの方法があります。

## ISO イメージからの再インストール

### 手順

1. Intelligent Provisioning の Web サイトから、最新の Intelligent Provisioning リカバリメディア用 ISO イメージファイルをダウンロードします (<http://www.hpe.com/jp/intelligentprovisioning>)。

### 注記:

サポートされているサーバーと Intelligent Provisioning のバージョンは、次のとおりです。

- Gen8 は Intelligent Provisioning 1.x をサポートしています。
  - Gen9 は Intelligent Provisioning 2.x をサポートしています。
- 

2. **ダウンロード** をクリックします。

3. ドライバーの言語とオペレーティングシステムを選択します。

画面がリロードされます。ドライバーの言語とオペレーティングシステムの選択フィールドのオプションが表示されます。

4. ソフトウェア-CD-ROM オプションの横の+記号をクリックすると、選択できるダウンロードが表示されます。

### ヒント:

ドライバーの言語とオペレーティングシステムの選択フィールドが表示されたままなので、必要に応じて下方向にスクロールし、ソフトウェア-CD-ROM オプションを表示します。

---

5. Intelligent Provisioning のバージョン用の **Intelligent Provisioning リカバリメディア** をクリックします。

6. **ダウンロード** をクリックします。Intelligent Provisioning リカバリメディアは ISO ファイルとしてダウンロードします。

7. Intelligent Provisioning のリカバリ用 ISO ファイルを iLO 仮想メディアを使用してマウントするか、Intelligent Provisioning のリカバリ用 ISO ファイルを DVD に焼き、CD/DVD ドライブにその DVD を挿入します。

8. ON を押し、サーバーの電源を入れます。

9. サーバーの POST 中にブートメニューを表示するには **F11** キーを押します。

10. キーボードで **1** を押し、CD/DVD から起動します。

サーバーがリカバリメディアから起動します。この手順には、時間がかかります。再インストールプロセスが自動的に開始します。

11. 再インストールが完了すると、サーバーが自動的に再起動します。サーバーの再起動後、**F10** キーを押して Intelligent Provisioning を再起動します。

## RPM パッケージからの再インストール (Linux のみ)

### 手順

1. SDR の Web サイト (<https://downloads.linux.hpe.com/SDR/repo/ip/>) から最新の Intelligent Provisioning リカバリ RPM パッケージに対応する RPM パッケージファイルをダウンロードします。
2. `#rpm -ivh hp-firmware-intelligentprovisioning-ip-2.xx-x.x.x86_64.rpm` コマンドを実行します。
3. `#cd /usr/lib/x86_64-linux-gnu-/hp-firmware-intelligent-provisioning-ip-2.xx` コマンドを実行します。
4. `#./hpsetup` コマンドを実行します。
5. `#reboot` コマンドを実行します。

# サーバー構成と OS インストール

## サーバーの構成と OS のインストール

Intelligent Provisioning を使用してハードウェアを構成し、ProLiant Gen9 サーバーまたは HPE Synergy コンピュートモジュールに OS をインストールするには、**構成とインストールメニュー**の指示に従って、次のタスクを完了します。

### 手順

1. **手順 1: ハードウェア設定を選択**(21 ページ)
2. **手順 2: OS の選択**(22 ページ)
3. **手順 3: OS 情報の入力**(26 ページ)
4. **手順 4: 設定のレビュー**(29 ページ)

## サーバーのサポートおよび特殊文字

- ProLiant ML10 Gen9 サーバーおよび ProLiant ML10 v2 サーバーは Intelligent Provisioning をサポートしていません。これらのサーバーでの OS のインストールについては、サーバーのドキュメントを参照してください。
- ProLiant SL、SE、および XL サーバー（ProLiant XL420 Gen9 サーバーを除く）は、Intelligent Provisioning によるオペレーティングシステムのインストールをサポートしていません。これらのサーバーは、オペレーティングシステムのインストールの展開機能を除いて、**メンテナンスの実行**(31 ページ)で説明されているメンテナンス機能をサポートしています。
- 特殊文字は、パスワードのみで使用できます。他のデータフィールドでは、特殊文字を使用しないでください。パス名では特殊文字、句読点、およびスペースはサポートされていません。

## 各 OS に対してサポートされるソースメディアのタイプおよびインストール方法

各構成とインストール画面では、画面の指示に従いながら、サーバーを構成したり、OS をインストールしたり、システムソフトウェアを更新したりすることができます。

### ❗ 重要:

Intelligent Provisioning は、オリジナルの使用許諾されたベンダーメディアまたは Hewlett Packard Enterprise ブランドのバージョンのみをサポートします。OS のデモまたはデベロッパーバージョン、カスタムソフトウェアまたは Service Pack を組み込むように変更されているメディアはサポートされておらず、インストールプロセスによって正しく識別されない可能性があります。

各 OS でサポートされるソースメディアとインストール方法について詳しくは、*Intelligent Provisioning* リソースノートを参照してください。

## SD カードのブートデバイスとしての使用

Intelligent Provisioning では、OS の展開先として Hewlett Packard Enterprise が提供する SD カードを使用できます。次の SD カードのみが、代替 OS ブートデバイスとしてサポートされています。

### VMware

- 8 GB USB Enterprise Mainstream Flash Media Drive Key Kit (737953-B21)
- 8 GB microSD Enterprise Mainstream Flash Media Kit (726116-B21)

## Windows、および SUSE Linux Enterprise Server

- 32 GB SD Enterprise Mainstream Flash Media Kit (700136-B21)
- 32 GB microSD Enterprise Mainstream Flash Media Kit (700139-B21)

### 注記:

- SD 起動では、展開インストールはサポートされません。
- Red Hat は、USB ドライブまたは SD メモリカードへのインストールをサポートしていません。サードパーティ製の仮想化テクノロジーのサポートについては、<https://hardware.redhat.com> からオンラインで入手できる Red Hat のハードウェア互換性リストを参照してください。

OS を ProLiant Gen9 サーバーまたは HPE Synergy コンピュートモジュールに展開するために、これらの SD カードをハードドライブまたはソリッドステートドライブストレージの代替として使用できます。OS の展開先として SD カードを使用することは、次のようなメリットがあります。

- OS をディスクレスサーバーおよび SAN ストレージに展開する
- 従来のドライブよりも少ない電力が使用される
- 温度が低下し、スロットリングと空調のコストが減少する
- 特に重力が高い環境で振動が減少する
- 他の用途のためにドライブベイを使用できる

## 手順 1 : ハードウェア設定を選択

最初の構成画面で、消費電力、ソフトウェアの更新、およびアレイ構成を制御するグローバル設定を入力します。

### ❗ 重要:

この時点で、サポートされていないメディアデバイスが接続されている場合、エラーが表示されます。この問題を解決するには、プロンプトが表示されたときに、サポートされていないメディアデバイスを取り外し、ネットワーク共有情報が使用できることを確認するか、ディスク、ISO、または USB ドライブが取り付けられていることを確認します。

### 手順

1. 使用する電力管理システムプロファイルを選択します。これらのプロファイルは、消費電力とパフォーマンスを対比した基本的なポリシーを設定するため、UEFI システムユーティリティのメニューから個別に設定する必要がなくなります。
2. 現在の（または推奨される）プロファイルが表示されますが、以下のオプションを選択して設定を変更できます。
  - 変更なし
  - 電力およびパフォーマンスの最適化
  - 最小消費電力
  - 最大パフォーマンス

推奨されるデフォルトは変化します。Intelligent Provisioning が、サーバー上でこれらのプロファイルのいずれかと一致する既存の設定を検出すると、システムプロファイルフィールドにそのプロファイルが表示されます。Intelligent Provisioning が、サーバー上でこれらのプロファイルのいずれとも一致しない設定を検出すると、このフィールドには**変更なし**が表示されます。

3. OS をインストールする前に、ソフトウェアアップデートを実行するかどうかを選択します。
4. サーバーのストレージサブシステムのアレイ構成仕様を入力します。

以下のオプションがあります。

- **現在の設定の維持**—すでに構築済みのアレイのメンテナンスには、既存の設定を使用します。サーバーを再プロビジョニングする場合は、このオプションを使用します。このオプションは、サーバーに有効な論理ドライブが存在する場合のみ表示されます。新しいサーバーのインストールの場合、このオプションは表示されません。

---

**注記:**

セキュアブートは、Windows Server 2016、Windows Nano Server 2016、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2012 が動作するシステム上で使用できます。RHEL7、SLES11/SP4、または SLES12 をインストールする場合、Intelligent Provisioning はセキュアブートをサポートしません。インストール後、RBSU でセキュアブートをオンにしてください。

- **推奨された設定** - HPE SSA は、存在するすべてのドライブに対してポーリングを行い、それらのドライブに適したアレイを構築します。たとえば、2つのドライブが Smart アレイカードに接続されている場合、セットアップはデフォルトで RAID 1 となります。最初にサーバーをプロビジョニングするときにこのオプションを選択することをおすすめします。

---

**△ 注意:**

このオプションを選択すると、すべてのディスクがリセットされ、アレイが存在する場合はアレイもリセットされます。初回のセットアップ時には、アレイもディスクデータも存在しないため、サーバーには影響しません。ただし、サーバーを再びプロビジョニングするときにこのオプションを選択すると、データおよびディスクアレイが消失する場合があります。HPE SSA について詳しくは、HPE Smart Storage Administrator のユーザーガイド ([http://www.hpe.com/support/SSA\\_UG\\_ja](http://www.hpe.com/support/SSA_UG_ja)) を参照してください。

- **カスタマイズ** - 続行の右矢印をクリックすると HPE SSA が開き、アレイ設定を選択できます。

---

**注記:**

Smart アレイコントローラー、SATA RAID、および HPE Smart HBA コントローラーは、HPE SSA を使用して構成できます。

5. 複数のコントローラーを使用できる場合は、ドロップダウンメニューから使用するターゲットコントローラーを選択します。
6. SD カードの構成設定を確認します。サポートされている SD カードを取り付けると、デバイスの詳細が表示されます。
7. 続行の右矢印をクリックして、**手順 2 : OS の選択**(22 ページ)に進みます。

---

## 手順 2 : OS の選択

**❗ 重要:**

この時点で、サポートされていないメディアデバイスが接続されている場合、次のエラーが表示されます :

接続した物理ディスクがありません

この問題を解決するには、サポートされていないメディアデバイスを取り外し、プロンプトが表示されたときに、ネットワーク共有情報を使用できることを確認するか、ディスク、ISO、または USB ドライブを取り付けられていることを確認します。

---

### 手順

1. OS ファミリーを選択します。

サポートされる OS ファミリーは次のとおりです。

- Microsoft Windows
- VMware ESXi/vSphere カスタムイメージ
- SUSE Linux Enterprise Server
- Red Hat Enterprise Linux
- ClearOS from HPE

---

**注記:**

ClearOS とは、Intelligent Provisioning の OS の選択肢として、どの顧客でもダウンロードできるオペレーティングシステムです。認定とサポートは、ClearOS の製造元である ClearCenter が提供します。ClearOS の詳細、およびサブスクリプションの購入やサポートについては、<http://www.clearos.com> を参照してください。

---

**❗ 重要:**

- VMware をインストールする場合は、インストールする前に Web サイト (<http://www.hpe.com/info/esxidownload>) から HPE Custom ISO をダウンロードしてください。イーサネットポート 0 がアクティブである必要があります。
- 

**注記:**

- Microsoft Windows または Red Hat Enterprise Linux 7.X をインストールする場合、ソフトウェアライセンスに同意する必要があります。
  - アップデートが利用可能な場合、それらを Intelligent Provisioning に組み込むために適切な手順を実行するように指示するメッセージが画面に表示されます。
- 

**2. インストール方法を選択します。**

選択する OS ファミリによっては、推奨されるデフォルトをはじめ、インストール方法のオプションが変化します。詳しくは、[各 OS に対してサポートされるソースメディアのタイプおよびインストール方法](#)(20 ページ)を参照してください。

---

**注記:**

システムがインターネットに接続していない場合は、インターネットのインストールは無効になります。

---

以下のオプションがあります (場合によって異なる)。

- **推奨** - この高速インストールプロセスでは、サーバーソフトウェアとファームウェアの構成、ストレージのパーティション作成、および OS とドライバーのインストールには、Hewlett Packard Enterprise が定義したデフォルトを使用します。また、ネットワークがご使用の場所にある場合は、ソフトウェアおよびファームウェアの更新も実行します。初回のサーバーのセットアップにはこのオプションを選択することをおすすめします。推奨インストールのオプションについて詳しくは、[推奨インストールに必要な OS 情報の入力](#)(26 ページ)を参照してください。
- 

**注記:**

AMS および ProLiant iLO 3/4 チャンネルインターフェイスドライバーは、Windows での**推奨**インストール方法を使用すると、自動的にインストールされます。ProLiant iLO 3/4 チャンネルインターフェイスドライバーは SUSE Linux Enterprise Server 11 および 12、Red Hat Enterprise 6 および 7 向けでは OS 標準のものが自動でロードされます。

---

- **カスタマイズ** - ウィザードを使用した完全なインタビューであり、このインタビューで、ネットワークのセットアップ、リモートサポートの登録、システムソフトウェア、サーバーのハードウェア構成、RAID 構成、サーバーのソフトウェアとファームウェアのアップデートに関するオプション、



ストレージのパーティショニング、および OS とドライバーのインストールを行うことができます。ストレージ分割などの推奨設定と異なる特定のパラメーターを使用する場合は、このオプションを選択します。カスタマイズインストールのオプションについて詳しくは、[カスタマイズインストールに必要な OS 情報の入力](#)(28 ページ)を参照してください。

- **手動** - Web 検索をせずにカスタム OS CD/DVD から OS をインストールします。このオプションを選択したら、サーバーが OS CD/DVD から再起動できるように、提供された CD/DVD を挿入します。

仮想インストールディスク (VID) は、デフォルトでは無効です。VID を有効にすると、OS のインストール中に USB 大容量記憶装置が VID という名前で表示されます。VID には、全部ではありませんがストレージおよびネットワークドライバーが含まれているため、OS ディスクに該当するドライバーが含まれていない場合でも、サポートされているアダプターをロードできます。ただし、VID およびカスタム CD/DVD には必要なドライバーの一部が含まれていない可能性があるため、ドライバー CD/DVD を作成して必要なドライバーをすべてインストールし、OS を正常にインストールできるようにしなければならない場合があります。ドライバーディスクの作成については、OS のインストールガイドを参照してください。VID の有効化について詳しくは、[VID の有効化](#)(30 ページ)を参照してください。

Red Hat Enterprise Linux 6 がインストールされ、SATA コントローラーを搭載するシステムでは、選択するインストール先デバイスは一番小さい番号のベイに接続されたドライブでなければなりません。

次の表では、Linux ブートドライバーパラメーターに関する情報を提供しています。

Linux エディション	問題	解決策	例
SUSE Linux Enterprise Server	SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3、および SP4、および SUSE Linux Enterprise Server 12 SP1 での命名規則の違いにより、SP ドライバーは、SUSE インストーラーが認識しないディレクトリにあります。	VID で SP ドライバーにアクセスするには、該当する OS の updatedir カーネルパラメーターを含めます。	updatedir= /linux/suse/i386-sles11.2 broken_modules=ahci for sles11, sles12
Red Hat Enterprise Linux	AHCI ドライバーは HPE Dynamic Smart アレイ B140i コントローラードライバーより前にロードされるため、B140i の論理ドライブは認識されません。	以下のブートパラメーターを入力すると、ドライバーがコントローラーを引き継がなくなります。	blacklist=ahci (RHEL6 用) modprobe.blacklist=ahci (RHEL7 用)

3. OS のインストール元のソースメディアを選択します。

メディアタイプには、次のものがあります。

- **物理 DVD または iLO 仮想メディア** (デフォルト) — 標準のブート可能な OS DVD/CD-ROM メディア、および iLO による仮想メディア。



**注記:**

USB ポートに接続されている DVD ドライブを使用する場合は、このオプションを選択し  
ます。

- **Microsoft Windows または Samba ネットワーク共有**—OS インストールファイルが存在するネッ  
トワーク共有。

**注記:**

サーバーディレクトリ構造は、空白文字や特殊文字（句読点も含む）を使用できません。

- **FTP**—OS インストールファイルが存在する FTP サーバー。

**注記:**

FTP のメディアオプションは、VMware および Red Hat Enterprise Linux の場合のみサポート  
されます。

- **USB キー**—OS インストールファイルが存在する USB フラッシュドライブ。

**注記:**

FAT フォーマットの USB ドライブのみがサポートされています。NTFS フォーマットでない  
と OS イメージファイルを USB にコピーできない場合は、DVD、ネットワーク共有、または  
FTP サーバーなどの別のソースメディアを使用してください。

- **Internet from nearest mirror server**—ClearCenter から ClearOS のサポートされるバージョンを  
ダウンロードします。

4. CD/DVD ディスクまたは USB ドライブからインストールする場合は、メディアを挿入します。
5. **続行**の右矢印をクリックして次の画面に移動します。画面はメディアタイプによって異なります。
6. ディスクまたは USB メディアを挿入するか、ネットワーク共有または FTP サイト上のインストール  
ファイルにアクセスするために必要な情報を入力します。メディアタイプに応じて、以下の情報を提  
供します。

メディアタイプ	必要な情報/操作
ディスク	ディスクを挿入します。
ネットワーク共有	以下のネットワーク接続情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>サーバー名/IP アドレス</b>—OS のコンテンツをホストするサーバ ーのサーバー名または IP アドレス。サーバー名を指定する場合、 DNS 情報の入力も必須です。</li><li>• <b>共有名</b>—OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前です。</li><li>• <b>ネットワーク共有ユーザー</b>—ネットワーク共有にアクセスす るためのユーザー名。</li><li>• <b>ネットワーク共有パスワード (暗号化なし)</b>—ネットワーク共有 にアクセスするユーザーのパスワード。</li></ul>

表は続く

メディアタイプ	必要な情報/操作
FTP	<p>以下のネットワーク接続情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サーバー名/IP アドレス—OS のコンテンツをホストするサーバーの FTP サーバー名または IP アドレス。FTP をサポートするには、FTP サーバーへの匿名アクセスが必要で、プロキシ経由の FTP サーバーへの接続はサポートされていません。</li> </ul> <hr/> <p><b>!</b> <b>重要:</b> FTP パスを入力する場合は、空白文字と句読点を削除してください。FTP サーバーディレクトリ構造は、空白文字や特殊文字（句読点も含む）を使用できません。</p> <hr/>
USB	USB ドライブを挿入して、USB ドライブ上の OS インストールファイルの場所に移動します。次に、ISO ファイルをダブルクリックします。
Internet install from nearest mirror server (ClearOS)	OS ファミリとして <b>ClearOS from HPE</b> を選択して、 <b>Internet install from nearest mirror server</b> を選択します。

7. 続行の右矢印をクリックして、手順 3 : OS 情報の入力(26 ページ)に進みます。

## 手順 3 : OS 情報の入力

### 手順

- このステップでは、必要な OS の情報を指定します。

### 推奨インストールに必要な OS 情報の入力

インストールする OS によっては、以下の情報を入力または確認する必要があります。

### 手順

- OS ファミリとエディションを選択します。
  - Microsoft HYPER-V Server 2012 をインストールする場合は、Windows 2012 の OS ファミリと HYPER-V OS を選択する必要があります。
  - Microsoft HYPER-V Server 2012 R2 をインストールする場合は、Windows 2012 R2 の OS ファミリと HYPER-V OS を選択する必要があります。
- OS とキーボードの言語を選択します。
- プロダクトキーを入力します。(すべての OS で表示されるわけではありません)
- これは、製品識別 (プロダクト ID) 番号です。プロダクトキーの入力が必要な場合に入力しないと、OS のインストールが無期限で停止して、キーの入力を指示されます。プロダクトキーを入力すると、インストールが再開されます。
- コンピューター名 (オプション) と管理者パスワード (オプション) を入力します。
- 続行右矢印をクリックして、手順 4 : 設定のレビュー(29 ページ)に進みます。

## StoreVirtual VSA (Virtual Storage Appliance) ソフトウェアの使用

StoreVirtual VSA を使用するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. [StoreVirtual VSA の展開](#)(27 ページ)
2. [VSA 連絡先情報の入力](#)(27 ページ)
3. [VSA の展開の完了](#)(28 ページ)

## StoreVirtual VSA

OS のインストール中、StoreVirtual VSA を展開できます。これにより、仮想化されたサーバー上にフル機能の共有ストレージを作成できます。StoreVirtual VSA ソフトウェアは、ハイパーバイザー環境をサポートする仮想マシンです。VSA は、ESXi 環境と Microsoft Hyper-V ハイパーバイザー環境の両方に対して共有ストレージを提供します。VSA を展開する際には、無料の 1 TB ライセンスキーの取得して有効にすることができます。

## StoreVirtual VSA のシステム要件

- StoreVirtual VSA の展開は、Windows では推奨およびカスタムインストール中にのみ、VMware ではカスタムインストール中にのみサポートされます。手動インストール時はサポートされません。
- サーバーは、StoreVirtual VSA を展開するネットワークに接続されている必要があります。
- StoreVirtual VSA は、以下のオペレーティングシステム上の vSphere または Microsoft Hyper-V でサポートされます。
  - VMware ESXi 5.5 Update 3、ESXi 5.1 Update 3、vSphere 6.0 Update 1、vSphere 6.0 Update 2
  - Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1
  - Microsoft Windows Server 2012
  - Microsoft Windows Server 2012 R2
  - Microsoft Windows Server 2016

## StoreVirtual VSA の展開

### 手順

1. **Software-Defined Storage** ページに移動して、VSA タイプを選択します。
2. StoreVirtual VSA ソフトウェアを展開しない場合は、**VSA を展開しないで続行**を選択し、**続行右矢印**をクリックします。VSA がインストールされないことを示す画面が表示されます。**続行右矢印**をクリックして、進みます。
3. VSA の確認が開始されます。VSA を使用できない場合、VSA は展開対象として選択されていません。また、VSA は必須ではありません。**続行右矢印**をクリックして OS の選択を確認します。
4. オプションの **VSA ホスト名**を入力します。
5. **VSA ネットワークのタイプ (DHCP または静的)**を選択します。
6. **静的**を選択する場合は、関連付けられたネットワークパラメーターを入力します。
7. **続行右矢印**をクリックします。

## VSA 連絡先情報の入力

StoreVirtual VSA を展開するには、必要なすべての連絡先情報を入力する必要があります。連絡先情報を指定しない場合は、**VSA を展開しないで続行**を選択する必要があります。

### 手順

1. 適切な連絡先情報を入力します。すべての必須フィールドに入力する必要があります。
2. 連絡先情報が確認され、有効でないフィールドがある場合、そのフィールドへの入力を求められます。
3. オプション：新製品情報を受信するには、**Sign me up...**オプションを選択します。
4. **続行右矢印**をクリックします。

### データプライバシー

収集される連絡先データは、Hewlett Packard Enterprise データプライバシーポリシー (<http://www.hpe.com/info/privacy> に掲載されています)に従って管理されます。Hewlett Packard Enterprise から連絡を受ける場合があります。

## VSA の展開の完了

### 手順

1. StoreVirtual の適切な一元化された管理コンソールを選択し、ダウンロードおよびインストールします。
2. 1 TB の無料ライセンスキーを取得し、それを有効にします。
3. 集中管理コンソールを設定します。

## カスタマイズインストールに必要な OS 情報の入力

OS の選択画面 (**手順 2 : OS の選択**(22 ページ)) で Windows ベースの OS およびカスタマイズインストール方法を選択した場合は、追加の画面が表示され、カスタム OS インストールと監視管理プロトコル情報を入力できます。

### Microsoft Windows の設定情報 (カスタマイズインストール用)

インストールする Microsoft OS のタイプによっては、以下の情報を入力する必要があります。

### 手順

1. OS ファミリとエディションを選択します。

#### 注記:

- Microsoft HYPER-V Server 2012 をインストールする場合は、Windows 2012 の OS ファミリと HYPER-V OS を選択する必要があります。別の OS ファミリを選択すると、インストールが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます : Unattended settings error。
- Windows 2012 R2 をインストールする場合は、Windows 2012 R2 の OS ファミリと適切な OS を選択する必要があります。

2. OS とキーボードの言語を選択します。
3. パーティションサイズを選択します。

これは、C: ドライブとして作成されるパーティションのサイズであり、そのパーティションに OS がインストールされます。デフォルトでは、この値は許容される最大のサイズ (論理ドライブのサイズ) です。許容される最小のサイズは、選択した OS によって異なります。

- a. パーティションサイズをデフォルト値から変更するには、フィールドの上のバーを左右にスライドさせてサイズを増減します。(カスタムパーティショニングは Microsoft Windows Essentials OS ではサポートされないため、Essential OS のインストール時にはこのオプションは使用できません。)
- b. デフォルト値に基づいてパーティションを作成するが、スワップ領域 (ページファイル) 用に確保するサイズ分だけ減らす場合は、**許可しないスワップ領域 (推奨されません)**を選択します。このオプションは、ページファイルを他の位置に配置する場合にのみ選択します。

#### 注記:

ディスクのパーティショニングを完了するまでに 20 分かかる可能性があります。

4. プロダクトキーを入力します。

これは、Microsoft 製品識別 (プロダクト ID) 番号です (OS によっては表示されません)。

5. (オプション) コンピューター名と管理者パスワードを入力します。

推奨されるデフォルトを使用する代わりに、個別に選択した名前を入力することをおすすめします。Microsoft Smart Business Server をインストールする場合は、インストール中にファイルシステム名を入力することをおすすめします。プライバシーを保護するには、コンピューター名に機密情報を使用しないでください。この名前は Insight RS および Insight Online に表示され、サポート、サービスプロバイダー、販売店、およびインストール担当者が確認できます。

---

**注記:**

このとき管理者パスワードを入力しない場合、最初のログイン時にパスワードの入力を要求されます (OS によっては表示されません)。

---

6. タイムゾーンを選択します。

タイムゾーンは、OS が夏時間の更新や他の時間関連の機能を実行するために使用されます。

7. (オプション) 組織名と所有者名を入力します。

**カスタムインストールでの VMware 構成情報**

OS の選択画面 (**手順 2 : OS の選択**(22 ページ)) で VMware OS および **カスタマイズインストール** 方法を選択した場合は、追加の画面が表示され、カスタム OS インストールと監視管理プロトコル情報を入力できます。

- (オプション) ホスト名を入力します。
- この名前は 3 文字以上にする必要があります。
- root パスワードを入力します。
- VMware では、デフォルトの初期パスワードは password です。
- ネットワークタイプを指定します。
- **DHCP** または **静的** を選択します。

## 手順 4 : 設定のレビュー

---

**△ 注意:**

次の画面に進めると、ドライブが新しくインストールされた状態にリセットされ、選択した OS がインストールされます。サーバー上の既存の情報は消去されます。初回のセットアップでは、サーバーにデータがないため、影響がありません。

---

**手順**

1. 画面の情報をレビューし、正しいことを確認します。
2. 後でこれと同じ設定を使用して別のサーバーをインストールおよび構成する場合は、**自動インストール** から、**展開設定を作成** を選択します。

---

**注記:**

展開設定プロファイルは推奨インストール方法で提供される設定のみをサポートするため、カスタマイズインストールの場合、カスタマイズインストール方法に固有の設定は取得されません。

3. **続行** の右矢印をクリックして、インストールおよび構成の自動プロセスを開始します。展開設定に応じて、さまざまな画面が表示され、インストールに関する進捗情報を提供します。

## インストールパラメーターの確認

インストール中および構成中は、次の点に注意してください。

- Windows インストールの場合、EULA が表示されることがあります。
- 次の 2 つのシステム設定によっては、このとき **ファームウェアの更新** 画面が表示される場合があります。

- **ステップ 1：環境の設定画面で、システムソフトウェアアップデートが有効になっている必要があります。**
- **ステップ 1：ハードウェアの設定画面で、OS をインストールする前に更新するが選択されている必要があります。**

ファームウェアの更新画面が表示されている場合は、画面に表示される指示に従って最新のファームウェアを入手し、サーバーコンポーネントにインストールします。更新が完了すると、OS インストール中ページが表示され、OS のインストールをいつでも開始できる状態になります。

- ドライブが取り付けられていないサーバーに OS の展開を試みると、サーバーが再起動し、POST 後に設定が適用中であることを示すページが表示されます。展開は続行されず、メッセージが IML に書き込まれます。
- Windows インストールの場合、ドライバーのインストール中に、テストされていない Windows バージョンに関するメッセージや hpkeyclick のメッセージが表示されることがあります。これは、予期された動作です。処置は不要です。

## VID の有効化

### 手順

1. サーバーを再起動して、POST 中に **F9** キーを押して、UEFI システムユーティリティにアクセスします。
2. システム構成 > BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) > システムオプション > USB オプション > 仮想インストールディスクの順に選択します。



#### ヒント:

必要に応じて、同じ手順を使用して VID を無効にできます。

# メンテナンスの実行

メンテナンスの実行ウィンドウには、メンテナンスに関する以下のタスクが含まれています。

- [Active Health System データのダウンロード](#) (31 ページ)
- [Intelligent Provisioning およびコンポーネントファームウェアの更新](#) (33 ページ)
- [Intelligent Provisioning 環境設定](#) (34 ページ)
- [展開設定の使用](#) (34 ページ)
- [HPE Smart Storage Administrator \(HPE SSA\) の使用](#) (40 ページ)
- [Insight Diagnostics の使用](#) (41 ページ)
- [クイック構成の使用](#) (42 ページ)
- [iLO 設定ユーティリティの使用](#) (44 ページ)
- [ライセンス管理の使用](#) (56 ページ)
- [消去ユーティリティの使用](#) (56 ページ)

## 注記:

HPE Synergy コンピュートモジュールでは、以下のメンテナンスタスクはサポートされません。

- Active Health System データのダウンロード
- ファームウェアの更新
- iLO 設定ユーティリティの使用
- 消去ユーティリティの使用

HPE Synergy コンピュートモジュールでこれらのタスクを実行するには、HPE OneView を使用する必要があります。

## Active Health System データのダウンロード

HPE サポートは、Active Health System (AHS) ログファイルを問題解決のために使用します。

ケースを送信するための高度な手順は次のとおりです。

1. 次の手順に従い、サポートの問題が発生しているサーバーから AHS ログをダウンロードします。
2. Active Health System ビューアー (<http://www.hpe.com/servers/AHSV>) に AHS ログをアップロードします。[AHVS への AHS ログのアップロード](#)を参照してください。
3. 自己修復アクションの推奨については、障害検出解析を確認します。詳しくは、[AHSV ユーザーガイド](#)を参照してください。
4. AHSV ナビゲーションメニューを使用して、サポートケースを作成します。詳しくは、[AHSV ユーザーガイド](#)を参照してください。

**Active Health System ログ画面**を使用して、AHS ログファイルケース番号の形式で、または .ahs 拡張子付きデフォルト文字列の形式で AHS テレメトリデータをサーバーから USB キーにダウンロードします。この画面を使って、データ抽出が必要な期間と、送信先メディアとして使用する USB キーを選択します。特定の開始/終了日を選択して、データ抽出の期間を限定できます。

iLO を通して接続している場合、仮想デバイスから共有されたローカル接続の USB キーは、AHS ログ情報を保存するために使用できます。

### Intelligent Provisioning Active Health System のダウンロードオプションの使用

#### 手順

1. サーバーに USB キーを挿入します。
2. サーバーの起動中に **F10** キーを押して、Intelligent Provisioning を起動します。



- Intelligent Provisioning のメンテナンスの実行画面から **Active Health System ダウンロード** をクリックします。
- Active Health System ダウンロード** 画面のドロップダウンリストから USB キーを選択します。

---

**注記:**

Active Health System ダウンロードを起動した後に USB キーを挿入した場合は、**再スキャン** をクリックします。

- メニューからデータの取得期間を選択します。7 日間のデータを取得することをおすすめします。10 ~15 MB のファイルが作成されます。
- フォームに連絡先の情報を入力します（任意）。連絡先の情報はカスタマーサービスが支援を提供するために役立ちます。
- USB キーにデータを保存するには、**ダウンロード** をクリックします。

データがダウンロードされたら、Active Health System Viewer にアップロードします。AHS ログのアップロードの詳細は、**AHVS への AHS ログのアップロード** を参照してください。

## アクティブヘルスシステムビューアにログインする

### 手順

- AHSV Web ページにアクセスするには、<http://www.hpe.com/servers/ahsv> にサポートされているブラウザで移動します。サポートされているブラウザは、以下のとおりです。
  - Internet Explorer 11
  - Chrome 51 以降
  - Firefox 46 以降
- ユーザー ID**（メールアドレス）と**パスワード**を入力して、**サインイン** をクリックします。

---

**注記:**

HPE パスポートアカウントを使用してログインする場合や HPE パスポートアカウントを作成する場合は、<http://www.hpe.com/info/insightonline-ja> に移動します。ほとんどの場合、HPE パスポートアカウントは HPE パスポートアカウントの登録プロセス中に使用したメールアドレスと同じです。Hewlett Packard Enterprise サポートセンターでユーザー ID を変更した場合は、必ず、メールアドレスではなくユーザー ID でログインしてください。

---

**注記:**

ログイン認証情報をシステムに記憶させるには、**ログイン情報を記憶** を選択してから**サインイン** をクリックしてください。

## AHVS への AHS ログのアップロード

最大ファイルサイズは 250MB です。250MB よりも大きいログについては、HPE サポートセンターまでお問い合わせください。



## 始める前に



### 重要:

AHS ログを作成したサーバーは、保証が有効になっていなければなりません。サーバーの保証が切れていると、「サーバーに資格がありません。ライセンスを更新するために以下のオプションを確認してください。」というエラーメッセージが表示されます。以下のオプションから選択できます。

- ライセンスをさらに購入する
- ライセンス購入のためのパートナーを探す
- HPE のサポートに問い合わせる

## 手順

1. **Upload AHS Log** を選択します。
2. ログファイルに移動して、**開く** をクリックします。

解析とログロードの状態を示すウィンドウが表示されます。AHS ログをロードしていると、画面に予想される完了時間が表示されます。



### ヒント:

このウィンドウには、さまざまなプラットフォームのビデオも表示されます。ログファイルがロードされるのを待っている間に、さまざまなビデオを検索して再生できます。

ロードプロセスをキャンセルするには、**キャンセル** をクリックしてください。

# Intelligent Provisioning およびコンポーネントファームウェアの更新

HPE サーバーおよびインストール済みのハードウェアオプションは、最新のファームウェアで事前にロードされています。ただし、アップデートされたファームウェアが利用可能である可能性があります。ProLiant サーバーでは、ファームウェアの更新ユーティリティを使用して、最新のファームウェアを見つけて適用します。HPE Synergy コンピュートモジュールでは、HPE OneView を使用してファームウェアを更新します。Intelligent Provisioning の更新は、SPP の更新が提供されていれば実行できます。

### 注記:

ファームウェアの更新では、最新の SPP で定義されているベースラインに従って利用可能な最新のアップデートが反映されます。最新の SPP のベースラインの後に追加されたより新しいアップデートは、アップデートリストに表示されません。

## 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行** をクリックします。
2. メンテナンスオプションで**ファームウェアの更新** を選択します。
3. このオプションを選択すると、システムはシステムソフトウェアアップデートの設定値 (**Intelligent Provisioning 環境設定** (34 ページ)) で指定されているソースのファームウェアをただちに検索します。これには数分かかる場合があるので、結果が表示されるまで待ってください。
4. システムがデータを取得している間に、**展開** または **閉じる** をクリックして、検索の詳細を表示または非表示にします。
5. SPP ISO をコピーしておきたい場合は、ダウンロードして DVD または USB キーにコピーしてください。SPP をダウンロードするには、Web サイト ([http://www.hpe.com/jp/servers/spp\\_dl](http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl)) を参照してください。ISO の使用手順については、SPP のクイックスタートガイド ([http://www.hpe.com/support/SPP\\_UG\\_jp](http://www.hpe.com/support/SPP_UG_jp)) を参照してください。

- システムは、ファームウェアデータを取得すると、取り付けられているハードウェアコンポーネントをチェックして、更新を推奨する項目を示します。検索結果によっては、**続行**をクリックして、ハードウェアコンポーネントのチェックを開始するよう指示される場合があります。
- これには数分かかる場合があるので、結果が表示されるまでお待ちください。

---

**注記:**


入手できる新しいファームウェアがない場合は、ファームウェアの更新画面に現在のバージョンが表示されます。

---

- アップデートする項目を選択し、**インストール**をクリックします。
- テーブルが再表示されます、選択した項目のみがリストに表示されています。
- リストに表示されているすべてのコンポーネントをインストールするために、**続行**をクリックします。
- インストールを実行する準備が整ったら、警告で**続行**をクリックします。  
各コンポーネントのインストール後、コンポーネント名の横にある左の列に緑色のチェックが自動的に表示されます。
- すべてのコンポーネントのインストールが完了したら、**戻る**をクリックして、メンテナンスの実行画面に戻ります。
- OS を再起動します。

## インストールされている Intelligent Provisioning のバージョンの判定

### 手順

- Intelligent Provisioning のバージョンを確認するには、Intelligent Provisioning ウィンドウで**システム情報**  **Intelligent Provisioning Image** バージョンが表示されます。

## Intelligent Provisioning 環境設定

インターフェイスおよびキーボード言語、ネットワークおよび共有設定、システム日付および時間、ソフトウェアのアップデート設定など、基本的な環境設定を変更するには Intelligent Provisioning 環境設定を使用します。さらに、EULA はこの画面からアクセスできます。

Intelligent Provisioning 環境設定を設定するには :

### 手順

- Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
- メンテナンスオプションから **Intelligent Provisioning 環境設定** を選択します。
- Intelligent Provisioning 環境設定ウィンドウが表示されます。

サーバーで Intelligent Provisioning を初めて実行すると、この画面が Intelligent Provisioning に最初に表示されます。この画面のフィールドについて詳しくは、**手順 1 : Intelligent Provisioning 環境設定の設定** (10 ページ)を参照してください。

## 展開設定の使用

展開設定では、USB キーと iLO Scripting を使用して 1 つ以上の ProLiant Gen9 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールに展開できるサーバー構成パッケージを作成できます。展開設定は、Scripting Toolkit の代わりに使用できます。

展開設定を使用するには、以下の手順に従ってください。

## 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで**展開設定**を選択します。
3. 展開設定ウィンドウが表示されます。

---

### 注記:

自動インストールオプションからの展開設定の作成は、Windows インストールでのみサポートされます。

---

展開設定を開くと、既存の展開設定プロファイルを管理するか、新しい展開設定プロファイルを作成するかを選択できます。

## 展開設定パッケージの作成

展開設定パッケージを作成するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. 展開設定ウィンドウで、次のいずれかを選択します。
  - a. 新しいカスタム展開設定プロファイルを作成する場合または既存の展開設定プロファイルを修正する場合は、**管理**をクリックします。
  - b. デフォルトのプロファイルのいずれかをベースにして新しい展開設定プロファイルを作成する場合は、ページ一番下にあるいずれかのテンプレートを選択します。
2. 展開設定ウィンドウの各オプションに対して、適切な情報を入力します。
3. **保存**をクリックします。プロンプトが表示されたら、名前を入力し、展開設定を保存する USB キーに移動します。

---

### ❗ 重要:

展開設定パッケージの名前にスペースを含めることはできません。

---

## 展開設定パッケージを使用した単一サーバーの構成

---

### ❗ 重要:

- 展開を使用して OS をインストールする前に、ドライブとアレイが構成されていることを確認してください。
  - 構成プロセスを中断しないでください。
  - 展開設定は、SD カード OS インストールと互換性がありません。
- 

展開設定パッケージを使用して単一のサーバーを構成するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. サーバー上で作成したばかりの展開を使用するには、**展開**をクリックします。
2. 以前に作成した展開を使用する場合は、展開を含んでいる USB キーを挿入します。
  - a. USB キーにある展開をローカルサーバーに保存します。
  - b. **展開を選択します**ウィンドウで、リストから展開を選択して**展開**をクリックします。USB キーと USB キーに保存されている展開が表示されない場合は、**再スキャン**をクリックします。
3. 展開が実行されると、確認画面で以下の要素に設定が適用されます。
  - a. ROM 設定

- b. アレイ設定
- c. システムオプション
- d. ファームウェアの更新
- e. ERS 設定

4. 確認画面では、次の表に示すアイコンを使用して設定の結果が表示されます。

アイコン	結果
疑問符	状態不明
赤色ボックス	エラー
灰色ボックス	不要な要素
緑色のチェック	正常に適用された要素
情報アイコン	クリックして追加情報を表示

## 展開設定パッケージレベルの操作の実行


パッケージレベルの操作は、展開内部の個々の設定ではなく、展開設定パッケージを対象にした処理を行います。

最初のページで選択を行うと、**展開を選択します**ウィンドウが開きます。



**展開を選択します**ウィンドウでは、左ペインにサーバーに保存されている既存の展開設定パッケージ、右ペインに取り付けられている USB ドライブに保存されている既存の展開設定パッケージがそれぞれ表示され、ウィンドウの中央にパッケージレベルの操作アイコンが表示されます。USB ドライブが取り付けられている場合は、その名前がウィンドウ上部の**ターゲット USB キー**フィールドに表示されます。

- 展開設定パッケージに対してパッケージレベルの操作を行うには、表示されているパッケージのいずれかを選択して、中央ペインの操作アイコンを選択します。
- 特定の展開設定パッケージを開いて個々の設定を変更するには、表示されているパッケージのいずれかをダブルクリックします。

次の表に、選択できる操作を示します。

タスク	説明
	<b>ローカルサーバーへコピー</b> アイコンをクリックして、選択した展開を、接続されている USB キーからローカルサーバーにコピーします。
	<b>USB キーにコピー</b> アイコンをクリックして、選択した展開を、サーバーから接続されている USB キーにコピーします。
	<b>新しい展開の作成</b> アイコンをクリックして、ローカルサーバーに新しい展開を作成します。
	<b>名前を変更</b> アイコンをクリックして、選択した展開の名前を変更します。展開の名前には、英数字のアンダースコアのみを使用します。名前にスペースを含めないでください。

表は続く

タスク	説明
	コピーアイコンをクリックして、選択した展開またはテンプレートを複製します。
	削除アイコンをクリックして、選択した展開を削除します。

## 展開設定パッケージの個々の設定の入力または変更

表示されている展開設定パッケージをダブルクリックすると、**展開設定**ページが再表示されます。このページでは、ページの左側に設定カテゴリが示され、修正する展開設定パッケージがページの上部に表示されます。別の展開設定パッケージに切り替えるには、ドロップダウンメニューを展開します。

カテゴリをクイックすると、関連するデータフィールドが表示されます。フィールドへの入力は任意であり、空白のまま、または未変更のままにできます。

- 新しい値を記録するには、**保存**をクリックします。
- サーバーで展開設定パッケージを実行するには、**展開**をクリックします。
- 前のページに戻るには、**管理**をクリックします。
- 展開設定画面を終了するには、**終了**をクリックします。

以下の各項では、使用できる展開設定カテゴリを示します。

### バージョン情報の入力

**バージョン情報**画面を使用して、展開に割り当てたい任意のタイプのユーザー定義識別情報を入力します。

### ファームウェア更新設定の入力

**ファームウェアの更新**画面を使用して、展開のインストールプロセスの一部としてのファームウェア更新の実行に関する情報を入力します。

以下のオプションがあります。

- **アップデートなし**
  - 展開のインストールプロセスでは、システムファームウェアは更新されません。
- **hpe.com**
  - システムは、展開インストールプロセスで、サーバーのインターネット接続を使用して Hewlett Packard Enterprise の Web サイトから最新のファームウェアを取得しサーバーにインストールします。
- **ローカルレポジトリ**
  - ファームウェアがすでにアップロードされているローカルレポジトリの URL。

### アレイ構成設定の入力

**アレイ構成**画面を使用して、RAID 設定を入力します。

#### 手順

1. RAID レベルを選択します。
2. ストライプサイズを選択します。
3. 読み取り/書き込みキャッシュの比率を選択します。2つの値の合計が必ず 100%になるようにしてください。

## オペレーティングシステム情報の入力

オペレーティングシステム画面を使用して、OS 情報とインストール設定を入力します。含まれるフィールドは、推奨インストール方法に含まれるフィールドと同じです。

すべての OS ですべてのソースメディアタイプがサポートされているわけではありません。

### 手順

- OS ファミリを選択します。
- OS メディアのパスを入力します。ローカルネットワーク上の Windows 共有または FTP サイトを指定できます。FTP サイトからの Windows のインストールはサポートされていません。
- システムは、この設定に基づいて、指定された場所から ISO を自動的に取得してインストールします。
  - Windows 共有の場所について、次のネットワーク接続設定を入力します。
    - サーバー名/IP アドレス**
      - OS の内容をホストするサーバーのサーバー名または IP アドレスです。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。
    - 共有名**
      - OS の内容をホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前です。
    - ネットワーク共有ユーザー名**
      - ネットワーク共有のアクセスに使用するユーザー名です。
    - ネットワーク共有パスワード**
      - ネットワーク共有のアクセスに使用するユーザー名のパスワードです。
  - FTP サイトを使用する場合は、次のネットワーク接続設定を入力します。
    - サーバー名/IP アドレス**
      - OS の内容をホストするサーバーの FTP サーバー名または IP アドレスです。FTP をサポートするには、FTP サーバーへの匿名アクセスが必要です。プロキシ経由の FTP サーバーへの接続はサポートされていません。
- ネットワーク共有へのアクセスに使い展開設定パッケージのユーザー名とパスワードを入力します。
- このパスワードは暗号化されません。アクセスの安全性を高めるには、FTP を使用してください。
- OS とキーボードの言語を選択します。
- プロダクトキーを入力します。
- プロダクトキーの入力が必要な場合に入力しないと、OS のインストールが無期限で停止して、キーの入力を指示されます。プロダクトキーを入力すると、インストールが再開されます。
- 展開をクリックした後、新しい OS を作成する準備ができていることを確認します。適用をクリックして OS をインストールします。

---

#### ❗ 重要:

- FTP パスを入力する際には、スペースと句読点を含めないでください。FTP サーバーディレクトリ構造は、空白文字や特殊文字（句読点も含む）を使用できません。
- Windows と SLES の FTP インストール、および RHEL のネットワーク共有インストールはサポートされていません。詳しくは、[各 OS に対してサポートされるソースメディアのタイプおよびインストール方法\(20 ページ\)](#)を参照してください。

---

#### 注記:

コマンドが iLO に送信されると、システムは再起動します。以前に展開したディスクドライブは消去される可能性があります。

---

## リモートサポート情報の入力

**Remote Support** 画面を使用して Insight Remote Support Central Connect を有効または無効にします。Insight Online Direct Connect は、展開設定機能ではサポートされません。

Remote Support を有効にする場合は、次の設定を入力します。

- **ローカル Remote Support サーバー**
  - Insight RS ホストサーバーのホスト名または IP アドレス。
- **ローカル Remote Support サーバーポート**
  - 使用するポート番号。Insight RS のデフォルトのポート番号は、7906 です。

Insight Remote Support Central Connect の要件については、[手順 3：HPE リモートサポートに登録する](#)(12 ページ)を参照してください。

## ROM 設定の入力

ROM 設定画面を使用して、ROM レベルの設定値を入力します。

### 手順

1. この展開設定パッケージを使用中のサーバーの再プロビジョニングに使う可能性がある場合は、展開設定パッケージの設定を適用する前に、サーバーをデフォルト設定に戻すかどうかを検討してください。安定性を確保するために、標準ブート順序および PCI デバイスの有効/無効設定はクリアされません。
2. 既存の設定を維持する場合は、展開設定パッケージの設定の中で既存の設定と異なるものが既存の設定の修正に使用されます。
3. 使用する電力管理パッケージを選択します。これらのパッケージは、消費電力とパフォーマンスを対比した基本的なポリシーを設定するため、UEFI システムユーティリティのメニューから個別に構成する必要がなくなります。
4. 推奨されるパッケージが表示されます。以下のオプションに設定を変更できます。
  - a. **電力およびパフォーマンスの最適化**
  - b. **最小消費電力**
  - c. **最大パフォーマンス**
5. これらのオプションについて詳しくは、[クイック構成の使用](#) (42 ページ)を参照してください。
6. ブート順序を選択します。
7. SATA デバイスを利用できる場合に有効にするかどうかを選択します。
8. Hewlett Packard Enterprise が提供するドライバーを含む仮想インストールディスク (VID) をインストールするかどうかを選択します。
9. VID を有効にすると、OS のインストールプロセスで、USB 大容量記憶装置が VID という名前が表示されます。このドライブには全部ではありませんがストレージおよびネットワークドライバーが含まれているため、OS ディスクに該当するドライバーが含まれていない場合でも、サポートされているアダプターをロードできます。その他のドライバーのロード方法については、OS のインストールガイドを参照してください。
10. 後から VID を無効にするには、次の手順に従ってください。
  - a. サーバーを再起動して、POST 中に **F9** キーを押して、UEFI システムユーティリティにアクセスします。
  - b. システム構成 > BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) > アドバンスドオプション > アドバンスドシステム ROM オプション > 仮想インストールディスクの順に選択します。

## システムオプションの入力

システムオプション画面を使用して、基本的なシステム設定を入力します。



## 手順

1. ユーザーインターフェイスとキーボードの言語を選択します。
2. Intelligent Provisioning EULA に同意します。
3. 展開設定パッケージで構成するサーバー上で Intelligent Provisioning を有効または無効にするかを選択します。
4. Intelligent Provisioning を無効にすると、そのサーバーで Intelligent Provisioning にアクセスできません。POST 実行中、画面では **F10** が赤色のテキストで表示され、**F10** キーが無効で Intelligent Provisioning にアクセスできないことを示します。Intelligent Provisioning の再有効化については詳しくは、[手順 2 : Intelligent Provisioning のアクティベート](#)(12 ページ)を参照してください。

# HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) の使用

## 手順

1. これらのユーティリティは、Smart アレイ製品用の高可用性構成、管理、および診断機能を提供します。

## HPE SSA の機能

HPE SSA は、オフラインモードとオンラインモードの両方で実行できるブラウザーベースのユーティリティです。HPE SSA :

- オンラインでのアレイ容量の拡張、論理ドライブの容量の拡大、オンラインスペアの割り当て、および RAID またはストライプ サイズの移行をサポート
- 未設定のシステムに対して最適なコンフィギュレーションを提示
- 各種の動作モードによって、コンフィギュレーション速度の向上や、設定オプションを使用したより多くの制御が可能
- コンフィギュレーションの手順ごとに画面にヒントを表示

HPE SSA で、画面の左上にあるメニューからコントローラーを選択できます。または、同じメニューから利用可能なコントローラーの構成または診断を選択できます。

## HPE SSA へのアクセス

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションの **HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA)** を選択します。
3. Smart Storage Administrator ウィンドウが表示されます。

## 構成

アクションの下で、**設定**をクリックして以下を含む設定タスクにアクセスします:

- **コントローラー設定の変更**
  - サポートされているコントローラー設定を指定します。コントローラーに応じて、アレイアクセラレータキャッシュ比率、移行と再構築の優先順位、表面スキャン遅延などを設定できます。
- **キャッシング設定**
  - サポートされるキャッシングを設定し、キャッシュメモリを利用してパフォーマンスを改善できます。また、バッテリーまたはキャパシタを使用する際に、キャッシュはデータの整合性を保護します。
- **構成の消去**
  - コントローラーの構成をデフォルトの状態にリセットします。既存のアレイまたは論理ドライブが削除され、論理ドライブのデータが失われます。作業を進める前に、これが適切な処置であることを確認してください。



- **物理ドライブライトキャッシュ設定**
  - コントローラーに接続された物理ドライブ上の書き込みキャッシュを有効または無効にします。この機能はパフォーマンスを改善できますが、注意してデータの整合性を確認する必要があります。
- **スペアアクティベーションモードの変更**
  - スペアアクティブ化モードを、デフォルトの動作（障害時にのみアクティブ化）から障害予測スペアアクティブ化に切り替えたり戻したりします。
- **ブート可能な論理ドライブ/ボリュームの設定**
  - プライマリおよびセカンダリブート論理ドライブおよびボリュームを設定します。ローカル論理ドライブのほか、リモート論理ドライブとボリュームもリストから選択できます。
- **ライセンスキーの管理**
  - ライセンスキーの追加または削除をユーザーに許可します。入力または削除したキーに応じて、さまざまな機能を有効または無効にできます。
- **詳細の表示**
  - 現在選択しているデバイスとそのすべての子デバイスに関して、可能な場合に、詳細情報を表示します。

## 診断/SmartSSD

アクションで、**診断**をクリックして診断レポートツールにアクセスします。

- **アレイ診断レポート**
  - 選択したコントローラーに対してレポート機能を実行して、利用可能な診断タスクを表示します。レポートには、サポートされるソリッドステートドライブの SmartSSD Wear Gauge 情報が含まれます。
    - **診断レポートの表示**
      - 選択したデバイスの診断レポートを生成し、表示します。レポートには、サポートされるソリッドステートドライブの SmartSSD Wear Gauge 情報および使用率および予想寿命情報が含まれます。
    - **診断レポートの保存**
      - グラフィック表示せずに、エクスポート用に選択したデバイスの診断レポートを生成します。
- **SmartSSD Wear Gauge レポート**
  - レポートを表示または生成します。
    - **SmartSSD Wear Gauge レポートの表示**
      - SSD の使用率および推定寿命情報を表示します。
    - **SmartSSD Wear Gauge レポートの保存**
      - エクスポート用のレポートが生成されますが、グラフィカルには表示されません。

## Insight Diagnostics の使用

### Insight Diagnostics

Insight Diagnostics は、プロセッサ、メモリ、およびハードディスクドライブなどのデバイスの重要なハードウェアコンポーネントの徹底したテストを提供し、総合的なオフラインシステムおよびコンポーネントテスト一式を提供します。Insight Diagnostics はシステム構成情報を取得し、詳細な診断テスト機能を提供します。

Insight Diagnostics は、確認、診断、およびハードウェアの問題の切り分けの効果的なプロセスの簡素化を行います。システムの可用性は次の主要な機能により維持されます。

- 現在の構成を様々なレベルとカテゴリで調査する
- ハードウェアの障害を視覚的にテストおよび診断する
- アップグレードのプランニング、ソフトウェアインベントリのトラッキング、ディザスタリカバリ、およびメンテナンスのために構成情報を文書に記録する
- 構成情報を別の場所にまたは詳細な分析のために転送する
- インテグレートドマネジメントログ (IML) を管理する

システム管理ツールに加え、サービスツールはシステムの問題をすばやく解決できます。サービスプロセスを合理化して、問題をすばやく解決するためには、保守サービスの要請があったときに正しい情報を用意する必要があります。この機能の組み合わせは、サービスプロセスの簡素化とダウンタイムを軽減します。

## Insight Diagnostics へのアクセス

### 注記:

Insight Diagnostics アイコンを誤ってダブルクリックすると、同時に 2 つの Insight Diagnostics セッションを開こうとしたことを知らせるメッセージが表示されます。この状況を修正するには、メッセージに示される手順に従ってください。

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで **Insight Diagnostics** を選択します。
3. Insight Diagnostics ウィンドウが表示されます。

オフラインテスト中は、ユーザーがインストールした OS は実行されません。そのため、システムからのソフトウェア情報は報告されません。コンピューターが以下の製品のいずれかから開始したときに、Insight Diagnostics (オフライン版) が実行されます。

- ProLiant Gen9 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュール上の Intelligent Provisioning
- SPP

**終了 診断**をクリックすると Insight Diagnostics アプリケーションを終了して、Intelligent Provisioning に戻ります。Insight Diagnostics は、Web ベースのアプリケーションとしても利用可能です。詳しくは、Web サイト (<http://www.hpe.com/info/intelligentprovisioning/docs>) にある Insight Diagnostics のユーザーガイドを参照してください。

## クイック構成の使用

UEFI システムユーティリティで個別に設定せずに、Intelligent Provisioning で電力管理ポリシーを設定するには、この機能を使用します。

クイック構成を使用するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで **クイック構成**を選択します。
3. クイック構成ウィンドウが表示されます。

Intelligent Provisioning からサーバーを初期設定し、プロビジョニングすると、このクイック構成画面が **手順 1: ハードウェア設定を選択**(21 ページ)画面に表示されます。

以下の電力プロファイルは、サーバーに HPE DIMM が装着されていない場合はすべて利用できるとは限りません。

- **電力およびパフォーマンスの最適化**

- 多くの OS およびアプリケーションのパフォーマンスへの影響を最小限にして、電力を最大限節約する設定に最適化されます。

• **最小消費電力**

- パフォーマンスに影響を及ぼすかもしれない電力低減メカニズムを有効にします。このモードでは、システムの最大消費電力は必ず減ります。

• **最大パフォーマンス**

- パフォーマンスに影響を与えるすべての電力管理オプションを無効にします。

プロファイルを選択して適用すると、確認メッセージが表示されます。

個々の設定をカスタマイズするには、サーバーの再起動中に **F9** キーを押して UEFI システムユーティリティに移動します。

## Intelligent Provisioning クイック構成設定と対応する UEFI システムユーティリティ設定

クイック構成オプションでは、UEFI システムユーティリティを使用して個々の設定を構成しなくても、パフォーマンスと消費電力の基本ポリシーを選択できます。

以下の表は、3 つの Intelligent Provisioning クイック構成プロファイルと、対応する UEFI システムユーティリティ設定を示しています。

**注記:**

この表のオプションの一部は、サーバーによっては調整できません。ただし、これらの設定を調整するオプションがない場合でも、ここに示す値がデフォルトになります。

電力管理オプション	クイック構成の設定（インテルベースのサーバー）		
	電力およびパフォーマンスの最適化	最小消費電力	最大パフォーマンス
電力プロファイル	電力およびパフォーマンスの最適化	最小消費電力	最大パフォーマンス
HPE パワーレギュレーター	HPE ダイナミックパワーセービングモード	スタティックローパワーモード	スタティックハイパフォーマンスモード
Intel QPI リンク電力管理	有効	有効	無効
最小プロセッサアイドル電力コアステート	C6 ステート	C6 ステート	C ステートなし
最小プロセッサアイドル電力パッケージステート	パッケージ C6（保持）ステート	パッケージ C6（保持）ステート	パッケージステートなし
エネルギー/パフォーマンスバイアス	パフォーマンスをバランス	パワーセービングモード	最大パフォーマンス
最大メモリバス周波数	自動	1333 MHz	自動

表は続く

電力管理オプション	クイック構成の設定（インテルベースのサーバー）		
	電力およびパフォーマンスの最適化	最小消費電力	最大パフォーマンス
チャンネルインターリーブ	有効	無効	有効
最大 PCI Express 速度	最大サポート	PCIe Generation 1	最大サポート
Intel QPI 周波数	自動	最小 QPI 速度	自動

## iLO 設定ユーティリティの使用

iLO 設定ユーティリティを使用して、iLO Web インターフェイスからではなく、Intelligent Provisioning から iLO の設定を表示または変更します。iLO について詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。

サーバーを登録するには、リモートサポート登録プロセスで iLO ネットワーク設定を構成する必要があります。

iLO の設定を変更する際に、表示が予想と異なる場合や未定義のエラーメッセージが表示される場合は、**F5** キーを押して画面表示を更新します。iLO Web インターフェイス経由で同時に変更が行われた可能性があります。

iLO 設定ユーティリティを使用するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで **iLO の構成**を選択します。
3. iLO 設定ユーティリティウィンドウが表示されます。

## iLO の概要情報の表示

iLO の概要情報を表示するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. **メンテナンス**ウィンドウで、**iLO の構成**をクリックします。
2. iLO 設定ユーティリティウィンドウが表示されます。
3. **概要**ボタンをクリックします。以下の情報が表示されます。
  - **iLO ホスト名**
    - iLO サブシステムの DNS 名。たとえば、`ilo.example.com` の代わりに `ilo`。この名前は、DHCP と DNS が IP アドレスではなく iLO サブシステム名に接続するよう構成されている場合のみ使用されます。
  - **iLO ファームウェアバージョン**
    - インストールされている iLO ファームウェアのバージョンと日付。
  - **iLO IP アドレス**
    - iLO サブシステムのネットワーク IP アドレス
  - **サーバーモデル**
    - この iLO プロセッサが統合されているシステムのタイプ
  - **システム ROM**
    - アクティブなシステム ROM の種類とバージョン

この情報は、iLO の Web インターフェイスの概要画面にも表示されます。詳しくは、iLO 4 のユーザーガイド (Web サイト <http://www.hpe.com/info/ilo/docs>) を参照してください。

#### 注記:

この項の残りの手順は、メンテナンスウィンドウで

#### iLO の構成

を選択していることを想定して記述されています。

## iLO のアクセス設定の編集

iLO アクセスの各種設定は、アクセス設定ウィンドウにある次の 3 個のタブから編集することができます。アクセスオプション、サービスおよび IPMI/DCMI

アクセスオプションタブのアクセス設定を編集するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. iLO コンフィギュレーションユーティリティウィンドウで、**アクセス設定**をクリックします。

アクセスオプションタブのデータが表示されます。

2. 必要に応じて、新しいオプションを編集します。**適用**をクリックします。

#### アクセスの設定 – アクセスオプション

- **アイドル状態の接続タイムアウト (分)**— iLO Web インターフェイスまたはリモートコンソールセッションが自動終了するまでの非アクティブの期間を指定します。各接続は別個のセッションであるため、iLO Web インターフェイスまたはリモートコンソールは、アイドル時間を別々に追跡します。仮想メディアデバイスが接続されている場合、リモートコンソールセッションはこの値の影響を受けません。以下の設定が有効です。

- **15、30、60、120 分間** — デフォルト値は 30 分です。
- **無限**— 非アクティブなユーザーでもログアウトされません。

別のサイトを参照したりブラウザを閉じることで iLO からのログアウトに失敗しても、アイドル状態になります。iLO ファームウェアがサポートする iLO 接続数には制限があります。**無限**タイムアウトオプションを間違えて使用すると、iLO は他のユーザーからアクセスできなくなります。タイムアウト後に、アイドル接続が繰り返されます。この設定は、ローカル/ディレクトリのユーザーに適用されます。ディレクトリサーバータイムアウトは、iLO の設定を阻止する可能性があります。設定の変更は、現在のユーザーセッションで直ちに有効になりませんが、すべての新しいセッションで直ちに強制設定されます。

- **iLO 機能**— iLO の機能が利用可能かどうかを指定します。以下の設定が有効です。
  - **有効 (デフォルト)** — iLO ネットワークが利用可能でありオペレーティングシステムドライバーとの通信を有効にします。
  - **無効**— iLO 機能が無効の場合、iLO ネットワークおよびオペレーティングシステムドライバーとの通信が切断されます。

iLO の機能を再度有効にするには、iLO 4 構成ユーティリティ (UEFI システムユーティリティ内) を使用して **iLO 機能を有効**に設定します。詳しくは、UEFI システムユーティリティユーザーガイドを参照してください。iLO 機能は、サーバーブレードでは無効にできません。

- **iLO ROM ベースセットアップユーティリティ**— iLO 4 コンフィギュレーションユーティリティを有効または無効にします。以下の設定が有効です。
  - **有効 (デフォルト)** — UEFI をサポートするサーバーで、UEFI システムユーティリティにアクセスしたときに iLO 4 コンフィギュレーションユーティリティが利用可能です。
  - **無効** — UEFI をサポートするサーバーで、UEFI システムユーティリティにアクセスしたときに iLO 4 コンフィギュレーションユーティリティが利用できません。
- **iLO RBSU に必要なログイン** — iLO 4 コンフィギュレーションユーティリティにアクセスした時に、ユーザー認証情報のプロンプトが表示されるかどうかを判断します。以下の設定が有効です。

- **有効**— iLO4 コンフィギュレーションユーティリティにアクセスした時に、ログインダイアログボックスが開きます。
- **無効** (デフォルト) — iLO4 コンフィギュレーションユーティリティにアクセスする時にログインは必要ありません。
- **POST 中に iLO IP を表示**—この設定は、ホストサーバー POST 中に iLO ネットワーク の IP アドレスを表示できます。
- **シリアルコマンドラインインターフェイスステータス**— シリアルポートを介して CLI 機能のログインモデルを変更できます。以下の設定が有効です。
  - **有効な認証が必要** (デフォルト) — ホストのシリアルポートに接続しているターミナルから SMASH CLP コマンドラインにアクセスできます。有効な iLO ユーザー認証情報が必要です。
  - **有効-認証は不要** - ホストシリアルポートに接続された端末から SMASH CLP にアクセスできます。iLO ユーザー証明書は不要です。
  - **無効** - ホストシリアルポートから SMASH CLP へのアクセスを無効にします。物理シリアルデバイスを使用する予定がある場合は、このオプションを使用します。
- **シリアルのコマンドラインインターフェイス速度**— CLI 機能のシリアルポートの速度を変更できます。以下の速度 (ビット/秒) が有効です。
  - **9600** (デフォルト)
  - **19200**
  - **38400**—この値は iLO4 コンフィギュレーションユーティリティではサポートされません。
  - **57600**
  - **115200**

シリアルポート構成は、パリティなし、データビット 8、ストップビット 1 (N/8/1) に設定されている必要があります。このオプションで設定されたシリアルポート速度は、iLO 4 構成ユーティリティで構成されたシリアルポートの速度に一致する必要があります。

- **仮想シリアルポートログ**— 有効または仮想シリアルポートのログを無効にします。以下の設定が有効です。
  - **有効** - 仮想シリアルポートの動作が iLO メモリ内の 150 ページの循環バッファーに記録され、CLI コマンド `vsp log` を使用して表示できます。仮想シリアルポートのバッファーサイズは 128 KB です。
  - **無効** (デフォルト) — 仮想シリアルポートの動作は記録されません。

この機能は、iLO ライセンスパッケージの一部です。詳しくは、Web サイト <http://www.hpe.com/info/ilo/licensing> を参照してください。

- **最短パスワード長**-ユーザーのパスワードを設定または変更する際に許容される最短文字数を指定します。指定する文字数は、0~39 文字の値でなければなりません。デフォルト値は 8 です。
- **サーバー名** - ホストサーバー名を指定することができます。この値を手動で割り当てることができませんが、オペレーティングシステムをロードするとホストソフトウェアによって上書きされることがあります。
  - サーバー名は最大 49 バイトまで入力できます。
  - ブラウザーの更新を強制して新しい値を表示するには、この設定を保存して **F5** キーを押します。
- **サーバー FQDN/IP アドレス**— サーバー FQDN または IP アドレスを指定できます。この値を手動で割り当てることができますが、オペレーティングシステムをロードするとホストソフトウェアによって上書きされることがあります。
  - FQDN または IP アドレスは最大 255 バイトまで入力できます。
  - ブラウザーの更新を強制して新しい値を表示するには、この設定を保存して **F5** キーを押します。
- **認証失敗ログ** - 認証失敗のログ記録条件を構成できます。すべてのログインタイプがサポートされ、それぞれのログインタイプは個別に動作します。有効な値は、次のとおりです。
  - **有効-障害ごと**— ログイン試行に失敗するごとに、ログインの失敗のログエントリが記録されます。
  - **有効-2 回の障害ごと**— ログイン試行に 2 回失敗するごとに、ログインの失敗のログエントリが記録されます。

- **有効-3回の障害ごと**— ログイン試行に3回失敗するごとに、ログインの失敗のログエントリが記録されます。
- **有効-5回の障害ごと**— ログイン試行に5回失敗するごとに、ログインの失敗のログエントリが記録されます。
- **無効**— ログインの失敗のログエントリは記録されません。

### アクセス設定 - サービス

- **セキュアシェル (SSH) アクセス** - SSH 機能を有効または無効にすることができます。SSH は、暗号化された iLO CLP へのアクセスを提供します。デフォルト値は**有効**です。
- **Secure Shell (SSH) ポート**—デフォルト値は 22 です。
- **リモートコンソールポート**— デフォルト値は 17990 です。
- **Web サーバー非 SSL ポート(HTTP)**— デフォルトは 80 文字です。
- **Web サーバー SSL ポート(HTTPS)**— デフォルト値は 443 です。
- **仮想メディアポート**— デフォルト値は 17988。
- **SNMP アクセス**— iLO が外部の SNMP 要求に応答すべきかどうかを指定します。デフォルト値は、**有効**です。**SNMP アクセスを無効**に設定すると、iLO はそのまま動作を続行し、iLO の Web インターフェイスに表示される情報は更新されますが、警告は生成されず、SNMP アクセスは許可されません。**SNMP アクセスを無効**に設定すると、**管理 > マネジメント > SNMP 設定**ページのほとんどのボックスが使用できなくなり、入力できなくなります。
- **SNMP ポート** - SNMP アクセス用の業界標準 (デフォルト) の SNMP ポートは、**161** です。**SNMP ポートの値をカスタマイズ**すると、標準以外の SNMP ポートの使用をサポートしない一部の SNMP クライアントが、iLO で正しく動作しない場合があります。
- **SNMP トラップポート** - SNMP アラート (またはトラップ) 用の業界標準 (デフォルト) の SNMP ポートは、**162** です。**SNMP トラップポートの値をカスタマイズ**すると、標準以外の SNMP トラップポートの使用をサポートしないアプリケーションで、一部の SNMP 監視アプリケーション (SIM など) が iLO で正しく動作しない場合があります。

サービスタブのアクセス設定を編集するには、以下の手順に従ってください。

- **iLO コンフィギュレーションユーティリティ**ウィンドウで、**アクセス設定**をクリックします。  
アクセスオプションタブのデータが表示されます。
- **サービスタブ**をクリックします。サービスタブのデータが表示されます。
- 必要に応じて、新しいオプションを編集します。**適用**をクリックします。

### アクセス設定 - IPMI/DCMI

iLO では、業界標準の IPMI と DCMI のコマンドを LAN 経由で送信することができます。IPMI/DCMI ポートは 623 に設定されており、変更はできません。

IPMI/DCMI タブでアクセス設定を編集するには :

- **iLO コンフィギュレーションユーティリティ**ウィンドウで、**アクセス設定**をクリックします。アクセスオプションタブのデータが表示されます。
- **IPMI/DCMI タブ**をクリックします。  
IPMI/DCMI タブデータが現れます。
- IPMI/DCMI を有効にするチェックボックスを選択するか、ボックスをクリアして無効にします。**適用**をクリックします。



## iLO 管理設定の編集

### 注記:

読み取りコミュニティは、以下のフォーマットをサポートします。コミュニティ名（たとえば、public）。コミュニティ名とそれに続く IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名（たとえば、public 192.168.0.1）。指定した IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名からの SNMP アクセスが許可されることを指定するには、このオプションを使用します。iLO 4 1.10 以降では、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力できます。

### 管理-SNMP 設定

#### 手順

1. **システムロケーション**（Agentless Management 専用） — 最高 49 文字の文字列であり、サーバーの場所を指定します。
2. **システム連絡先**（Agentless Management 専用） — システム管理者またはサーバー所有者を指定する最大 49 文字の文字列です。文字列には、名、メールアドレス、または電話番号を含めることができます。
3. **システムの役割**（Agentless Management 専用） — サーバーの役割や機能を説明する最大 64 文字の文字列です。
4. **システムの役割詳細**（Agentless Management 専用） — サーバーが実行する具体的なタスクを説明する最大 512 の文字の文字列です。
5. **読み取りコミュニティ**（Agentless Management 専用） — 構成されている SNMP 読み取り専用コミュニティ文字列です。
6. **トラップコミュニティ**— 設定済みの SNMP トラップコミュニティ文字列。
7. **SNMP アラート送信先**— iLO から SNMP アラートを受信する最高 3 つまでのリモート管理システムの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名です。
8. **SNMP ポート**—SNMP 通信に使用されるポート。この値は読み取り専用ですが、アクセス設定サービスページで変更できます。iLO 管理ユーティリティの **アクセス設定 > サービスページ** に移動して、SNMP ポートを編集します。詳しくは、**iLO のアクセス設定の編集**(45 ページ)を参照してください。

管理ウィンドウの次の 3 つのタブから、各種の iLO 管理設定を編集できます：SNMP 設定、SNMP アラート、および Insight Management の統合。

SNMP 設定タブのマネジメント設定を編集するには、以下の手順に従ってください。

- **iLO 設定ユーティリティ**ウィンドウで、**管理**をクリックします。SNMP 設定タブのデータが表示されます。
- **Agentless Management** または **SNMP パススルー**を選択します。
- 必要に応じてフィールドにデータを入力します。
- **適用**をクリックします。

#### 管理 — SNMP アラート

- **トラップソース識別子**—iLO が SNMP トラップを生成する際に SNMP 定義された `sysName` 変数で使われるホスト名を決定します。デフォルト設定は、iLO ホスト名です。
- **iLO SNMP アラート** - ホストの OS に依存せずに iLO によって検出されたアラート状態を、指定された SNMP アラート送信先（SIM など）に送信できます。
- **Insight マネジメントエージェント SNMP アラートへ転送** - ホストマネジメントエージェントによって検出されるアラート状態は、iLO を経由して SNMP アラート送信先に転送できます。これらのアラートは Insight Management エージェントによって生成され、それぞれサポートされる OS で利用可能です。ホストサーバーがこれらのアラートを受信するためには、ホストサーバーに Insight Management エージェントをインストールする必要があります。
- **コールドスタートトラップブロードキャスト**— コールドスタートトラップがサブネットブロードキャストアドレスがない場合は、SNMP アラート送信先ボックス内に設定されたトラップ送信先にブロードキャストします。IPv4 ホスト用のサブネットブロードキャストアドレスは、サブネットマスクのビット装備とホスト IP アドレスとの間のビットワイズ論理 OR 論理オペレーションを実行することで



取得されます。サブネットマスク 255.255.252.0 を持つホスト 192.168.1.1 は、ホスト 192.168.1.1 のブロードキャストアドレス 192.168.1.1 | 0.0.3.255 = 192.168.3.255 を持ちます。

- **SNMPv1 トラップ**— 有効な場合、SNMP アラート送信先ボックスで構成されたリモート管理システムに SNMPv1 トラップが送信されます。

SNMP Alerts タブで設定を編集するには：

- **iLO 設定ユーティリティ**ウィンドウで、**管理**をクリックします。SNMP 設定タブのデータが表示されます。
- **SNMP アラート**タブをクリックします。SNMP アラートのデータが表示されます。
- ラジオボタンをクリックして、**トラップソース識別子**を選択します。
- 各設定ごとにドロップダウンリストをクリックして、設定の有効、無効を選択します。
- アラートを選択する場合は、**テストアラートを送信**をクリックします。
- **適用**をクリックします。

### 管理 - Insight Management 統合

- **Hewlett Packard Enterprise System Management Homepage (HPE SMH) FQDN/IP アドレス** - この値は、iLO ページの Insight Agent リンクをクリックしたときにブラウザがアクセスするサイトを設定します。ホストサーバーの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを入力します。iLO からアクセスできるように、プロトコル (https://) とポート番号 (:2381) が IP アドレスまたは DNS 名に自動的に追加されます。URL が (例、CPQLCFG) 他の方法で設定されている場合、ブラウザの更新ボタンをクリックし、アップデートされた URL が表示されます。
- **返されたデータのレベル** - この設定により、iLO によって受信される匿名の検出メッセージの内容が制御されます。返される情報は、SIM の HTTP 識別要求に使用されます。以下のオプションが利用可能です。
  - **有効 (iLO+サーバー関連データ)** (デフォルト) - SIM は、マネジメントプロセッサをホストサーバーに関連付け、SIM と統合できるだけの十分なデータを提供できます。
  - **無効 (リクエストに応答しない)** - iLO は、SIM 要求に応答しません。

Insight Management 統合タブの設定を編集するには、以下の手順に従ってください。

- **iLO 設定ユーティリティ**ウィンドウで、**管理**をクリックします。SNMP 設定タブのデータが表示されます。
- **Insight Management 統合**タブをクリックします。Insight Management 統合タブのデータが表示されます。
- 必要に応じて、新しい設定を編集します。
- **適用**をクリックします。

## ネットワークインターフェイス設定の編集

### ネットワーク設定 — 概要

#### 手順

1. **使用中の NIC** - 現在使用している NIC 構成 (たとえば、iLO 専用ネットワークポートまたは共有ネットワークポート)。
2. **iLO ホスト名**— iLO サブシステムの DNS 名。(ilo.example.com の代わりに iLO など)。この名前は、DHCP と DNS が IP アドレスではなく iLO サブシステム名に接続するよう構成されている場合のみ使用されます。詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
3. **MAC アドレス** - NIC の MAC アドレス。
4. **リンク状態**— 現在のリンク状態 (iLO 専用ネットワークポートのみ)。
5. **両面印刷オプション**— 現在の両面印刷オプション (全二重または半二重)。
6. **DHCPv4 ステータス**— 有効または無効。
7. **IPv6 ステートレスアドレス自動構成 (SLAAC)**— 有効または無効。
8. **SLAAC アドレス**— iLO で作成された IPv6 の物理アドレス。

### ネットワーク設定 — 一般

- iLO ホスト名の設定
  - **iLO ホスト名**— iLO サブシステムの DNS 名。(ilo.example.com の代わりに ilo など)。この名前は、DHCP と DNS が IP アドレスではなく iLO サブシステム名に接続するよう構成されている場合のみ使用されます。詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
  - **ドメイン名** - iLO のドメイン名。DHCP を使用していない場合は、ドメイン名を入力します。
- NIC 設定
  - **iLO 専用ネットワークポートの使用**— チェックボックスを選択している場合、システムはサーバー背面のコネクタで NIC を使用していることを示します。NIC は iLO トラフィックのみを処理します。このチェックボックスを空白のままにしている場合、システムが共有ネットワークポートを使用していることを示します。共有ネットワークポートには 2 種類あります。
    - LOM - サーバーに組み込まれている NIC を使用します。この NIC は、サーバーネットワークトラフィックを処理し、同時に iLO トラフィックを処理するように iLO を設定することもできます。
    - FlexibleLOM - サーバーの特殊なコネクタに接続するオプションの NIC を使用します。この NIC は、サーバーネットワークトラフィックを処理し、同時に iLO トラフィックを処理するように iLO を設定することもできます。一部のサーバーは、FlexibleLOM をサポートしません。共有ネットワークポート - FlexibleLOM オプションをサポートするサーバーの一覧については、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
  - リンク状態 (iLO 専用ネットワークポートのみ)。
    - **自動 (デフォルト)** — ネットワークに接続する際に、サポート対象の最高リンク速度とデュプレックス設定をネゴシエートする iLO を有効化します。
    - **1000 BASE T、全二重**— 全二重を使用する 1 Gb 接続を強制します (BL C-class サーバーはサポートされていません)。
    - **1000 BASE T、半二重**— 半二重を使用する 1 Gb 接続を強制します (BL C-class サーバーはサポートされていません)。
    - **100BaseT、全二重**— 全二重を使用する 100 Mb 接続を強制します。
    - **100BaseT、半二重**— 半二重を使用する 100 Mb 接続を強制します。
    - **10BaseT、全二重**— 全二重を使用する 10 Mb 接続を強制します。
    - **10BaseT、半二重**— 半二重を使用する 10 Mb 接続を強制します。

全般タブの設定を編集するには：

- **iLO 設定ユーティリティ**ウィンドウで、**ネットワーク設定**をクリックします。一般タブのデータが表示されます。
- 必要に応じて設定を編集します。**適用**をクリックします。

#### ネットワーク設定-IPv4

- **DHCPv4 を有効にする**— iLO を有効にして DHCP サーバーから IP アドレス (およびその他の多くの設定) を入手します。
  - **DHCPv4 付属ゲートウェイを使用**— iLO が DHCP サーバーから提供されたゲートウェイを使用するかどうかを指定します。DHCP を使用しない場合は、ゲートウェイの IPv4 アドレスボックスに、ゲートウェイアドレスを入力します。
  - **DHCPv4 付属のスタティックルートを使用**— iLO が DHCP サーバーから提供されたスタティックルートを使用するかどうかを指定します。そうでない場合、Static Route #1、Static Route #2、および Static Route #3 のボックスにスタティックルート目的地、マスク、およびゲートウェイのアドレスを入力します。
  - **DHCPv4 付属のドメイン名を使用**— iLO が DHCP サーバーから提供されたドメイン名を使用するかどうかを指定します。DHCP を使用していない場合は、**共有ネットワークポート**のページで、Domain Name ボックスにドメイン名を入力します。
  - **DHCPv4 付属の DNS 名を使用**— iLO が DHCP サーバーから提供された DNS 名を使用するかどうかを指定します。Primary DNS Server、Secondary DNS Server、および Tertiary DNS Server のボックスに DNS サーバーのアドレスを入力します。

- **DHCPv4 付属の時間設定を使用**— iLO が DHCPv4 サーバーから提供された時間を使用するかどうかを指定します。
- **DHCPv4 付属の WINS 名を使用**— iLO が DHCP サーバーから提供された WINS 名を使用するかどうかを指定します。Primary WINS Server および Secondary WINS Server のボックスに WINS サーバーのアドレスを入力します。
- **IPv4 Address**—iLO の IP アドレスを設定します。DHCP を使用している場合、iLO IP アドレスが自動的に提供します。DHCP を使用しない場合、スタティック IP アドレスを入力します。
- **サブネットマスク**—iLO IP ネットワークのサブネットマスクです。DHCP を使用している場合、サブネットマスクは自動的に提供されます。DHCP を使用しない場合、ネットワークのサブネットマスクを入力します。
- **ゲートウェイの IPv4 アドレス**— iLO ゲートウェイの IP アドレスです。DHCP を使用している場合、iLO ゲートウェイの IP アドレスが自動的に提供されます。DHCP を使用しない場合、iLO ゲートウェイ IP アドレスを入力します。
- **Static Route #1、Static Route #2、および Static Route #3**—iLO スタティックルーティング送信先、マスク、およびゲートウェイアドレス。**DHCPv4 付属のスタティックルートを使用**を使用すると、これらの値は自動的に入力されます。そうでない場合は、スタティックルートの値を入力してください。
- **プライマリ DNS サーバー**—プライマリ DNS サービスの IPv4 アドレスを入力します。
- **セカンダリ DNS サーバー**—セカンダリ DNS サービスの IPv4 アドレスを入力します。
- **ターシャリ DNS サーバー**—ターシャリ DNS サービスの IPv4 アドレスを入力します。

---

#### 注記:

DNS サーバーの位置が IPv4 および IPv6 で設定され、両方のソースが使用される場合、IPv6 で最初は設定オプション、プライマリソース、次にセカンダリ、それからターシャリを使用する iLO クライアントアプリケーションに従い、優先設定が提供されます。

---

- **DNS サーバーの登録を有効にする**— このオプションを選択すると、DNS サーバーの IPv4 アドレスと名前を登録するための iLO が有効になります。
- **プライマリ WINS サーバー**— プライマリ WINS サーバーの IPv4 アドレスを入力します。
- **セカンダリ WINS サーバー**— セカンダリ WINS サーバーの IPv4 アドレスを入力します。
- **WINS サーバーの登録を有効にする**— このオプションを選択すると、WINS サーバーの IPv4 アドレスを登録するための iLO が有効になります。
- **起動時にゲートウェイを Ping**— iLO を初期化した時に iLO がゲートウェイにリクエストパケットを送信させるには、このチェックボックスを選択します。

IPv4 タブの設定を編集するには :

- **iLO 設定ユーティリティ**ウィンドウで、**ネットワーク設定**をクリックします。一般タブのデータが表示されます。
- **IPv4 タブ**をクリックします。IPv4 タブのデータが表示されます。
- DHCPv4 を有効にしている場合は、このチェックボックスをクリアします。
- 必要に応じて、新しい設定を編集します。**適用**をクリックします。

#### ネットワーク設定-IPv6

- **iLO クライアントアプリケーションがまず IPv6 を使用する**— iLO クライアントアプリケーション向けに IPv4 および IPv6 の両方のサービスアドレスが構成される場合、このオプションはクライアントアプリケーションにアクセスする際にどちらのプロトコルを iLO が最初に試行するか指定します。この設定は、FQDN を使用して NTP を設定する場合、名前リゾルバーから受信したアドレスリストにも適用されます。
  - iLO で IPv6 を先に使用する場合は、このチェックボックスを選択します。
  - iLO で IPv4 を先に使用する場合は、このチェックボックスをクリアします。

最初のプロトコルを使用して通信に失敗した場合、iLO は自動的に 2 番目のプロトコルを試します。

- **ステートレスアドレス自動構成 (SLAAC) を有効化**— iLO が、ルーターアドバタイズメッセージから自身の IPv6 アドレスを作成できるようにするには、このチェックボックスを選択します。

---

#### 注記:

iLO は、このオプションが選択されていない場合でも、自身のリンク-ローカルアドレスを作成します。

- **プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー、ターシャリ DNS サーバー** - DNS サービスの IPv6 アドレスを入力します。DNS サーバーの位置が IPv4 および IPv6 の両方で構成されている場合は、両方のソースが使用されます。iLO クライアントアプリケーションは、最初の構成オプションとして IPv6 を使用し、優先順位はプライマリソース、セカンダリソース、そしてターシャリソースの順となります。
- **DHCPv6 付属の NTP サーバーを使用**— iLO が DHCPv6 サーバーから提供された時間を使用するかどうかを指定します。
- **DDNS サーバーの登録を有効にする**— このオプションは、iLO が DNS サーバーの IPv6 アドレスと名前を登録するかどうかを決定します。
- **スタティック IPv6 アドレス 1-4**— 自動的に割り当てられていない場合、最大 4 つのスタティック IP アドレスを入力します。アドレスのプレフィックス長を指定する必要があります。
- **スタティックデフォルトゲートウェイ**— ネットワークにルーターアドバタイズメッセージが存在しない場合、IPv6 のデフォルトのゲートウェイアドレスを入力します。
- **スタティックルート #1 (宛先/ゲートウェイ)、スタティックルート #2 (宛先)、スタティックルート #3**— スタティック IPv6 ルート宛先のプレフィックスとゲートウェイアドレスのペアを入力します。宛先のプレフィックス長を指定する必要があります。リンク-ローカルアドレスは宛先としては許可されませんが、ゲートウェイとしては許可されます。

IPv6 タブの設定を編集するには、以下の手順に従ってください。

- **iLO 設定ユーティリティ**ウィンドウで、**ネットワーク設定**をクリックします。一般タブのデータが表示されます。
- **IPv6** タブをクリックします。IPv6 タブのデータが表示されます。
- 必要に応じて、新しい設定を編集します。**適用**をクリックします。

#### ネットワーク設定-SNTP

- **DHCPv4 付属の時間設定を使用**— iLO が DHCP サーバーから提供された時間を使用するかどうかを指定します。
- **DHCPv6 付属の時間設定を使用**— iLO が DHCP サーバーから提供された時間を使用するかどうかを指定します。
- **ホストに NTP 時間を反映**— iLO が DHCP サーバーから提供された時間ではなく NTP 時間を使用するかどうかを指定します。
- **プライマリタイムサーバー**— DHCPv4 または DHCPv6 SNTP が使用されない場合、プライマリタイムサーバーボックスにサーバーのアドレスを入力します。
- **セカンダリタイムサーバー**— DHCPv4 または DHCPv6 SNTP が使用されない場合、セカンダリタイムサーバーボックスにサーバーのセカンダリタイムを入力します。
- **タイムゾーン**— 世界中のタイムゾーンのドロップダウンリストです。

SNTP タブの設定を編集するには :

- **iLO 設定ユーティリティ**ウィンドウで、**ネットワーク設定**をクリックします。一般タブのデータが表示されます。
- **SNTP** タブをクリックします。SNTP タブのデータが表示されます。
- DHCPv4 または DHCPv6 の時間設定を有効にしている場合は、該当するチェックボックスをクリアします。
- 必要に応じて、新しい設定を編集します。**適用**をクリックします。

# ユーザー管理の編集

## 手順

### 1. ユーザーアカウント

- 編集可能なユーザーが表示されます。

#### a. ユーザー名

- ユーザー管理ページと iLO 概要ページのユーザーリストに表示されます。これは、ログイン名と同じである必要はありません。ユーザー名は、最長 39 文字です。ユーザー名には印刷可能な文字を使用する必要があります。

#### b. ログイン名

- iLO にログインするときに使用する必要がある名前です。ログイン名の最大長は 39 文字です。ログイン名には印刷可能な文字を使用する必要があります。

#### ❗ 重要:

ログイン名は一度設定すると変更できません。

### 2. 権限

- 次の権限のいずれかを選択します。

#### a. ユーザーアカウント管理

- ユーザーがローカル iLO ユーザーアカウントを追加、編集、および削除できるようにします。この権限を持つユーザーは、すべてのユーザーの権限を変更できます。この権限がないと、本人の設定の表示と本人のパスワードの変更しか実行できません。

#### b. iLO 設定の構成

- セキュリティ設定を含むほとんどの iLO 設定を変更し、リモートに iLO ファームウェアを更新することができます。この権限では、ローカルユーザーアカウントは管理できません。

#### c. リモートコンソールアクセス

- ビデオ、キーボード、マウスの制御を含めて、ホストシステムのリモートコンソールにリモートにアクセスできます。

#### d. 仮想メディア

- ホストシステム上の仮想メディア機能を使用できます。

#### e. 仮想電源およびリセット

- ホストシステムの電源再投入やリセットを実行できます。これらの操作は、システムの可用性を中断します。この特権を持つユーザーは、ボタンを使用してシステムを診断できます。

新しいユーザーを追加するには、以下の手順に従ってください。

- iLO 設定ユーティリティウィンドウで、**ユーザー管理**をクリックします。ユーザー管理ウィンドウが表示されます。
- **新規**をクリックします。ユーザーを追加ウィンドウが表示されます。
- ユーザー名を入力します。ユーザー名は、最長 39 文字です。ユーザー名には印刷可能な文字を使用する必要があります。
- ログイン名を入力します。ログイン名の最大長は 39 文字です。ログイン名には印刷可能な文字を使用する必要があります。

#### ❗ 重要:

ログイン名は一度設定すると変更できません。

- パスワードを入力します。パスワードの最低限の長さは、**アクセス設定**ページに設定されています。パスワードの最大長は 39 文字です。
- パスワードを再入力して確認します。
- 追加するユーザーに適したユーザー権限を選択します。
- **追加**をクリックします。

既存のユーザーアカウントを編集するには、以下の手順に従ってください。

- iLO 設定ユーティリティウィンドウで、**ユーザー管理**をクリックします。ユーザー管理ウィンドウが表示されます。
- **編集**をクリックします。ユーザーを編集ウィンドウが表示されます。
- 編集したいユーザーアカウントのユーザー名を入力します。
- ユーザーのパスワードを入力します。パスワードを再入力して確認します。
- チェックボックスを選択して、ユーザーの権限を変更します。
- **更新**をクリックします。

ユーザーアカウントを削除するには、以下の手順に従ってください。

- iLO 設定ユーティリティウィンドウで、**ユーザー管理**をクリックします。ユーザー管理ウィンドウが表示されます。
- **ユーザーアカウント**ドロップダウンリストで、削除するユーザーアカウントを選択します。
- **削除**をクリックします。**OK** をクリックしてユーザーアカウントを削除するか、**キャンセル**をクリックします。

## iLO のリセット

この画面は、iLO をリセットしたり、iLO を工場出荷時のデフォルトの設定に戻すときに使用します。

### 手順

#### 1. iLO のリセット

- クリックすると、iLO がリセットされます。

#### 2. 工場出荷時の設定にリセット

- 工場出荷時の設定に復元します。

iLO をリセットするには:

- iLO 設定ユーティリティウィンドウで、**リセット**をクリックします。iLO のリセットウィンドウが表示されます。
- 必要なオプションのチェックボックスを選択します。**リセット**をクリックします。iLO がリセットされます。再度ログインする必要はありません。

## HPE Remote Support の使用

**メンテナンスの実行**から HPE Remote Support 機能にアクセスできます。実行できるタスクには、登録解除やプロキシ設定の更新が含まれます。

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションの **HPE Insight Remote Support** を選択します。

Intelligent Provisioning を使用するために初期設定するとき、この画面は**手順 3 : HPE リモートサポートに登録する**(12 ページ)に表示されます。

## HPE リモートサポートの登録解除

リモートサポートを登録解除するプロセスは、Insight Online Direct Connect 登録方法または Insight Remote Support Central Connect 登録方法のどちらを使用したかによって異なります。

### Insight Online Direct Connect の登録解除

#### 手順

1. **メンテナンスの実行**ページに移動して、**HPE Insight Remote Support** を選択します。
2. **登録を解除します**をクリックします。
3. Intelligent Provisioning によって、サーバーの登録が解除されたことが通知されます。

### Insight Remote Support Central Connect からの登録解除

#### 手順

1. Insight RS Console にログインします。
2. 次のいずれかを実行します。
  - a. サーバーの監視を一時的に停止するには、Insight RS Console で、**デバイス > デバイスの概要**  
タブでサーバーを選択し、  
**ACTIONS > DISABLE SELECTED**  
を選択します。  
  
iLO の Web インターフェイスからサーバーの登録を直接解除することは、Insight RS Console でサーバーを一時的に無効にすることと同じです。  
  
Intelligent Provisioning からサーバーの登録を直接解除することは、Insight RS Console でサーバーを一時的に無効にすることと同じです。  
  
iLO または Intelligent Provisioning からサーバーの登録を直接解除することは、Insight RS Console でサーバーを一時的に無効にすることと同じです。
  - b. サーバーの監視を永久に停止するには、Insight RS Console からサーバーを削除します。サーバーを削除するには、  
**デバイスの概要**  
タブでサーバーを選択し、  
**アクション > 選択したサーバーを削除**  
を選択します。
3. Intelligent Provisioning の **メンテナンスの実行 > HPE Insight Remote Support** ページの順に選択します。
4. サーバーが登録されていないことを確認します。

### Web プロキシ設定の編集（Insight Online Direct Connect のみ）

サーバーがリモートサポートに登録された後で Web プロキシ設定が変更された場合は、サーバーが引き続きリモートサポートデータを Hewlett Packard Enterprise に送信できるように設定を更新します。

#### 手順

1. **メンテナンスの実行**ページに移動して、**HPE Insight Remote Support** を選択します。
2. **プロキシをアップデート**をクリックします。
3. 必要に応じて、次の設定を更新します。
  - a. **Web プロキシサーバー**

- ホスト名または IP アドレスを入力します。
  - b. Web プロキシポート
  - c. Web プロキシユーザー名
  - d. Web プロキシパスワード
4. プロキシをアップデートをクリックします。

## ライセンス管理の使用

iLO Advanced ライセンスパックと HPE Smart キャッシュライセンスパックを有効にするには、ライセンス管理機能を使用します。

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで**ライセンス管理**を選択します。
3. ライセンス管理ウィンドウに、サーバーに適したライセンスのリストが表示されます。
4. iLO Advanced ライセンスパックまたは HPE Smart キャッシュライセンスパックのライセンスキーを入力します。
  - a. iLO Advanced ライセンスパックでは、リモートメディアアクセスと拡張された診断およびランタイム機能を使用できます。
  - b. HPE Smart キャッシュライセンスパックでは、Smart アレイコントローラーでソリッドステートデバイスを利用して、ハードディスクドライブ上に存在するデータへのアクセスを迅速化することができます。
5. **適用**をクリックしてライセンスを有効にします。

## 消去ユーティリティの使用

消去ユーティリティを使用して、ハードディスクドライブおよび Active Health System ログをクリアし、UEFI システムユーティリティの設定をリセットします。

### 消去ユーティリティのオプション

各デバイスで使用する消去オプションを選択します。



デバイス	消去しない	リセット	完全消去
すべてのハードディスクドライブ	ハードディスクドライブ操作を消去しません	ハードディスクドライブのマスタースタートレコードを消去します。したがって、ハードディスクドライブから起動できなくなります	パターン上書き消去を実行します。したがって、どのデータも復旧できなくなります。VID も消去されます。詳しくは、 <b>完全消去の使用</b> (57 ページ)を参照してください。 <sup>1</sup>
Active Health System ログ	AHS ログを消去しません	AHS パーティションをマウントし、パーティションのすべてのファイルを消去します	利用不可
UEFI システムユーティリティ	UEFI システムユーティリティ設定がリセットされない	UEFI システムユーティリティ設定をデフォルトにリセットします	利用不可

<sup>1</sup> ハードディスクドライブの安全な消去には数時間かかる場合があります、大型ドライブでは数日かかる場合があります。これは、この完全消去手順で予想される動作です。

## 消去ユーティリティへのアクセス

### △ 注意:

消去ユーティリティを実行する前にバックアップを行ってください。このユーティリティは、以下の処理を実行します。

- システムを元の工場出荷時の状態に戻す。
- アレイ設定やディスクパーティションなどの現在のハードウェア構成情報を削除する。
- 接続されているハードディスクドライブの内容をすべて消去する。

消去ユーティリティは、このユーティリティでユーザーが選択した項目に基づいて、システム内の指定された領域からデータを消去します。既存のデータとシステム構成設定が消失します。

消去ユーティリティを使用するには、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで**消去ユーティリティ**を選択します。
3. 各デバイスで使用する消去オプションを選択します。
4. **消去**をクリックします。**消去の確認**ウィンドウが表示され、**OK** をクリックして消去手順を開始するか、**キャンセル**をクリックして消去を取り消すことを求められます。

## 完全消去の使用

Intelligent Provisioning は、DoD 5220.22-M で概説されているガイドラインに準拠した内部システムストレージおよびハードディスクのための完全消去機能を提供します。完全消去は、ランダムパターンを 3 パスプロセスで適用することで、システムに接続されているすべてのブロックデバイスを上書きします。これらのブロックデバイスには、ハードディスク、サーバーに接続されているストレージシステム、iLO が使用している内蔵ストレージが含まれます。システムに取り付けられたストレージの量によっては、完全消去プロセスが完了するまでに数時間、あるいは数日かかることがあります。

---

**△ 注意:**

- 完全消去は、システムが停止しているときのみ、細心の注意を払って使用してください。完全消去プロセスは iLO をリセットしてそこに保存されているすべてのライセンスを削除し、ほとんどの場合に BIOS 設定をリセットし、システムに保存されているすべての AHS データおよび保証データを削除します。セキュア消去も、あらゆる展開設定プロファイルを削除します。iLO は、このプロセスが完了した後に、複数回再起動します。
  - FCoE、iSCSI、外部 SAS、ファイバーチャネルストレージは、完全消去を使用する前に切断しないと、これらも消去されてしまいます。
-

# 高度なトピック

## Intelligent Provisioning アップデートミラーの作成のために提供されているスクリプトの使用

Windows 環境では、Hewlett Packard Enterprise が提供するスクリプトを使用して Intelligent Provisioning のアップデートミラーレポジトリにファームウェアやソフトウェアを自動で格納できます。このミラーを作成する場合は、SPP で配布されるソフトウェアとファームウェアをローカルネットワーク内のサーバーにアップロードします。アップロード後、ネットワーク内部のサーバーを更新する際に、サーバーは Web サイトではなくローカルサーバー上のファームウェアやソフトウェアにアクセスできるようになるため、サーバーの更新にかかる時間を大幅に短縮できます。

このスクリプトは、hp-ipcli を使用してプロセスを自動化します。

### 手順

1. Web サイト (<https://downloads.hpe.com/pub/softlib2/software1/pubsw-windows/p1911695011/v118289/ipcli.exe>) からスクリプトを取得します。
2. コマンドラインからツールを実行し、ファイルを提供するディレクトリにポイントします。また、プロキシサーバーが必要な場合は、2 番目のコマンドを入力します。

```
>ipcli.exe -dir <ファイルの使用元となるディレクトリへのパス>
```

```
>ipcli.exe -dir <ファイルの使用元となるディレクトリへのパス> -proxy http://  
proxy.yourcompany.com:8080/proxy
```

---

#### 注記:

入力を要求するプロンプトがツールの実行中に表示される場合があります。

3. ダウンロードが完了したら、config.xml を開いて、replace をファイルを提供する URL に変更します。  
**新しく作成したアップデートミラーを使用するように ProLiant サーバーを設定する**
  - メンテナンスの実行画面から **Intelligent Provisioning 環境設定** を選択します。
  - システムソフトウェアアップデートを **Custom URL** に変更して、ファイルを提供する URL を入力します。

## Intelligent Provisioning アップデートミラーの作成

Intelligent Provisioning アップデートミラーを使用して、ローカルネットワーク内でサーバーから SPP 経由で提供されるソフトウェアおよびファームウェアにアクセスすると、更新を迅速化することができます。

アップデートミラーには、FTP または HTTP 経由でファイルを提供できる任意の OS を搭載するサーバー上で動作する Web サーバーが必要です。

### 手順

1. SPP 用の Intelligent Provisioning アップデートミラーを作成するには、以下の手順に従ってください。
2. SPP をダウンロードし、ファイルを Web サーバーにコピーします。
  - a. Web サイトから .iso ファイルをダウンロードします。

[http://www.hpe.com/jp/servers/spp\\_dl](http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl)

- b. SPP ISO をマウントし、コンテンツを Web サーバーにコピーします。次の例では、UNIX コマンドが使用されており、Web サーバーが `/srv/www/spp-version1` からファイルを提供することが前提となっています。Windows の場合は、ユーティリティを使用して ISO をマウントし、Windows エクスプローラーを使用してファイルをコピーすることができます。

```
# mkdir -p sppmount
# mount -o loop SPP2011.09.0.iso sppmount
# mkdir -p /srv/www/spp-version1
# cp -r ./sppmount/. /srv/www/spp-version1
# umount sppmount
# rmdir sppmount
```

3. ミラーで Intelligent Provisioning ソフトウェアをホストする場合は、Intelligent Provisioning の最新バージョンをダウンロードし、ファイルを Web サーバーにコピーします。

- a. Web サイトにアクセスします。

```
ftp://ftp.hpe.com/pub/softlib2/software1/pubsw-linux/p1048499843
```

- b. 最新のフォルダーから、次のファイルをダウンロードします。

- `gaius.img.gz`
- `vid.img.gz`
- `hp_manifest.zip`

- c. ファイルを Web サーバーにコピーします。

```
# cp gaius.img.gz /srv/www/ipupdate-1.00
# cp vid.img.gz /srv/www/ipupdate-1.00
# unzip -d /srv/www/ipupdate-1.00 hp_manifest.zip
```

4. SPP 構成ファイルに含まれている URL を修正して Web サーバーのアドレスを指定します。

- a. `spp-version1/hp_manifest/config.xml` ファイルを作成または修正して、ルールを追加し、Web サーバーを参照するように URL を変更します。例、

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<hp_manifest schema_version="1.0.0.0"><index>
  <config>
    <rewrite_url
      pattern="file://\."
      replace="http://myserver/spp-version1"
    />
  </config>
</index>
</hp_manifest>
```

この例では、Intelligent Provisioning が、`file://` で始まる各 URL を、Web サーバー上の URL に置き換えます。たとえば、`file://./hp/swpackages/CP0012345.scexe` の要求は、`http://myserver/spp-version1/hp/swpackages/CP0012345.scexe` に変換されます。

- b. `config.xml` を参照するように `spp-version1/hp_manifest/index.xml` を修正します（まだ示されていない場合）。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<hp_manifest schema_version="1.0.0.0">
  <index>
    <include src="meta.xml" type="meta" lang="en" />
    <include src="meta-ja.xml" type="meta" lang="ja" />
    <include src="os.xml" type="operating_systems" />
    <include src="type.xml" type="type" />
    <include src="system.xml" type="systems" />
  </index>
</hp_manifest>
```

```

    <include src="device.xml" type="devices" />
    <include src="category.xml" type="categories" />
    <include src="config.xml" type="config" />
  </index>
</hp_manifest>

```

5. アップデートミラーで Intelligent Provisioning ソフトウェアをホストする場合は、Intelligent Provisioning 構成ファイルに含まれている URL を修正して Web サーバーのアドレスを指定します。
- a. ipupdate-1.00/hp\_manifest/config.xml ファイルを作成または修正して、ルールを追加し、Web サーバーを参照するように URL を変更します。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<hp_manifest schema_version="1.0.0.0"><index>
  <config>
    <rewrite_url
      pattern="file://\."
      replace="http://myserver/ipupdate-1.00 "
    />
  </config>
</index>
</hp_manifest>

```

この例では、Intelligent Provisioning ソフトウェアが、file://で始まる各 URL を、Web サーバー上の URL に置き換えます。たとえば、file://./gaiusw.img.gz の要求は、http://myserver/ipupdate-1.00/gaiusw.img.gz に変換されます。

- b. config.xml を参照するように ipupdate-1.00/hp\_manifest/index.xml を修正します（まだ示されていない場合）。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<hp_manifest schema_version="1.0.0.0">
  <index>
    <include src="meta.xml" type="meta" lang="en" />
    <include src="meta-ja.xml" type="meta" lang="ja" />
    <include src="os.xml" type="operating_systems" />
    <include src="type.xml" type="type" />
    <include src="system.xml" type="systems" />
    <include src="device.xml" type="devices" />
    <include src="category.xml" type="categories" />
    <include src="config.xml" type="config" />
  </index>
</hp_manifest>

```

6. Intelligent Provisioning ユーザーインターフェイスで入力された URL からアップデートファイルの保存場所に FTP または HTTP 要求をリダイレクトする index.xml ファイルを作成します。
7. たとえば、Intelligent Provisioning ユーザーインターフェイスで http://mywebserver/update-src/hp/proliant という URL を使用するには、次の index.xml ファイルを作成し、Web サーバーのルートディレクトリに対応する update-src/hp/proliant ディレクトリに保存します。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<hp_manifest schema_version="1.0.0.0">
  <index>
    <include
      src="http://myserver/spp-version1"
      type="redirect"
    />

    <include
      src="http://myserver/ipupdate-1.00"
      type="redirect"
    />
  </index>
</hp_manifest>

```

```

    />
  </index>
</hp_manifest>

```

### 異なる SPP の異なるサーバーへのミラーリング

正規表現を `index.xml` ファイルに追加することにより、Web サーバーに、SMBIOS ランタイム属性に基づいて、異なる SPP を異なるサーバーに提供させることができます。正規表現が SMBIOS 情報とマッチする場合はファイルが含まれ、マッチしない場合は無視されます。

表 1: 正規表現の属性

属性名	SMBIOS 属性
<code>product_name</code>	SMBIOS 製品名 (dmidecode - string system-product-name)
<code>product_serial</code>	SMBIOS シリアル番号 (smidecode - string system-serial-number)
<code>product_uuid</code>	SMBIOS UUID (dmidecode - string system-id)
<code>bios_family</code>	ROM ファミリ (dmidecode - string bios-version)

たとえば、異なるタイプのサーバーに異なる SPP を提供するアップデートミラーを構成するために、`product_name` 属性を `index.xml` ファイルのリダイレクトコマンドに追加することができます。次の例では、DL380 サーバーは `spp-version1` にアクセスしますが、DL580 サーバーは `spp-version2` にアクセスします。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<hp_manifest schema_version="1.0.0.0">
  <index>
    <include
      src="http://myserver/spp-version1"
      type="redirect"
      product_name=".*dl380.*"
    />

    <include
      src="http://myserver/spp-version2"
      type="redirect"
      product_name=".*dl580.*"
    />

    <include
      src="http://myserver/ipupdate-1.00"
      type="redirect"
    />
  </index>
</hp_manifest>

```

## HPE USB Key Utility の使用

### USB Key Utility の使用

USB Key Utility は、Intelligent Provisioning または SPP の内容、およびその他の CD または DVD イメージを USB フラッシュドライブにコピーする Windows アプリケーションです。USB フラッシュドライブ

にデータをコピーした後、Intelligent Provisioning または SPP を、CD または DVD からではなく、USB フラッシュドライブから実行できるようになります。このプロセスは、ヘッドレスサーバーを操作する場合に役立ちます。また、Web から取得したイメージの内容を必要に応じてカスタマイズできるため、内容の保存、移動、および使用が簡単になります。

ユーティリティをインストールすると、スタートメニューのシステムツールにショートカットが追加されます。

### 機能

USB Key Utility は以下をサポートします。

- 1 GB より大きな ISO ファイル。
- USB フラッシュドライブのクイックフォーマット機能。
- 最大 32 GB までの USB フラッシュドライブ。32 GB より大きな USB フラッシュドライブはユーティリティに表示されません。

## 前提条件

USB フラッシュドライブにアプリケーションをインストールするには、サポートされるソース CD、DVD、または ISO と、それらソースの内容を保存できるだけの空きスペースを備えた USB フラッシュドライブを用意する必要があります。USB Key Utility では、メディアまたは ISO イメージよりも大きいストレージ容量 (2 GB 以上) を備える USB 2.0 フラッシュドライブが必要です。

---

### 注記:

バージョン 2.0 以降の USB Key Utility は、32 ビットオペレーティングシステムをサポートしません。

---

### AutoRun ファイル

AutoRun ファイルはユーティリティから自動的に開始しません。AutoRun ファイルを起動するには、USB キー上の該当する CD または DVD フォルダーで、autorun.exe ファイルをダブルクリックします。

## 起動可能な USB キーの作成

ユーティリティをインストールすると、スタートメニューの USB Key Utility プログラムグループにショートカットが追加されます。

### 手順

1. USB Key Utility フォルダーの **USB Key Utility** ショートカットをダブルクリックします。
2. アプリケーションの指示に従い、以下の各ステップを実行します。
  - a. スプラッシュ画面で **次へ** をクリックします。
  - b. エンドユーザー使用許諾契約書を確認したら、**同意する** を選択し **次へ** をクリックします。
  - c. **CD/DVD から起動可能な USB キーを作成** を選択し、**次へ** をクリックします。

---


### 注記:

SUM 6.2.0、SPP 2014.02.0、または Intelligent Provisioning 1.60 以降で **起動可能な USB キーにさらに CD/DVD を追加オプション** を選択しないでください。これらの製品は、単一デバイスでのマルチブート環境をサポートしなくなりました。


---

- d. 空いている USB ポートに、USB フラッシュドライブを挿入します。メディアをオプティカルドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントして、**次へ** をクリックします。
- e. ソースのドライブ文字およびターゲット USB フラッシュドライブのドライブ文字を選択し、**次へ** をクリックします。

---

 ヒント: 使用するドライブキーが見つからない場合は、**ターゲット再スキャン**をクリックするか、新しいドライブキーを挿入してください。

---

 **注意:**

ターゲット USB キー上のすべてのデータが削除されます。

---

- f. 警告メッセージの画面で**次へ**をクリックします。

USB フラッシュドライブがフォーマットされ、ソースの内容が USB フラッシュドライブにコピーされます。

- g. `README.TXT` ファイルを表示するには、**完了**をクリックします。
- 

**注記:**

表示する `README.TXT` ファイルが ISO に含まれている場合にのみファイルが表示されます。

---



# トラブルシューティング

## 原因

この章には、一般的な問題、Windows 固有の問題、Linux 固有の問題、および VMware 固有の問題のトラブルシューティングに関するトピックが含まれています。修正が可能な場合には、その処置手順について説明します。

## トラブルシューティングの基本的な手法

Intelligent Provisioning には、問題の解決に使用できる、以下に示すトラブルシューティングの基本ツールが用意されています。

- **Active Health System データのダウンロード** (ProLiant サーバーのみ)
- **Insight Diagnostics の使用**

## 一般的な問題のトラブルシューティング

### プロファイル展開時のインストールの中断

#### 症状

OS 設定を含むプロファイルを接続されているディスクがないサーバーに展開すると、OS 設定が適用され、問題が発生したことを示す物理ディスクが接続されていませんエラーメッセージが表示されず、インストールが中断されます。

#### 原因

サーバーにディスクが接続されていません。

#### アクション

1. ディスクを接続し、再試行してください。

### UEFI モードで起動できない

#### 症状

UEFI モードでシステムを起動できないため、OS のセットアップを完了できません。画面に使用可能なブートデバイスが見つからないというメッセージが表示されて、再起動します。

#### 原因

サポートされていないオプションカードを使用しています。

#### アクション

1. オプションカードを UEFI モードをサポートしているデバイスと交換します。

### AHS ダウンロードユーティリティで AHS ログがダウンロードされない

#### 症状

AHS ダウンロードユーティリティのダウンロードボタンで AHS ログをダウンロードできません。

## 原因

システムを初めて使用するとき、システムは**ダウンロードボタン**を認識しません。

## アクション

1. 操作をやり直します。**ダウンロードボタン**を2度目に使用すると、ログがダウンロードされます。

## HPE SSA にアクセスできない

### 症状

レガシ BIOS モードで動作している SATA RAID をサポートするシステムから HPE SSA にアクセスできません。

### 原因

Dynamic Smart アレイ (B140i) は、UEFI モードのみで機能します。

### アクション

1. レガシ BIOS モードの HPE SSA にアクセスするには、SATA コントローラー (RBSU 内) を Dynamic Smart アレイモードから SATA AHCI モードに切り替えてください。

## OS 推奨の DVD が手動インストールとして機能する

### 症状

サーバーをパスワード保護するように設定している場合、OS 推奨の DVD が手動インストールとして機能します。

### 原因

システムはパスワードで保護されています。また、この問題を回避する変更を適用することはできません。

### アクション

1. 必要ありません。Intelligent Provisioning のインストールプロセスは仕様どおりに動作しています。

## システム情報ページに情報が表示されない

### 症状

Intelligent Provisioning をロードしているとき、システム情報ページに InfiniBand カードの情報が表示されません。

### 原因

システム情報ページには、InfiniBand カードの情報は表示されません。

## アクション

1. 完全なオペレーティングシステムを起動し、Insight Diagnostics を実行することでどのハードウェアが接続されているかが表示されるので、システム情報を確認できます。

## 完全消去に対して、Active Health System (AHS) ログオプションが選択される

### 症状

オンボード NAND 型フラッシュに対して**完全消去**オプションを選択すると、デフォルトで Active Health System (AHS) ログオプションも選択されます。

### 原因

AHS の完全消去プロセスは、消去ユーティリティのオンボード NAND 型フラッシュオプションでは開始されません。

## アクション

1. 必要ありません。このプロセスは設計どおりの動作です。

## SD カードを使用したインストールに失敗する

### 症状

レガシ BIOS モードに設定されたシステムで、SD カードを使用したインストールが失敗します。

### 原因

SD カードは、UEFI モードでのみサポートされます。システムに他のストレージ (DVD、仮想 DVD デバイスなど) が存在する場合、レガシ BIOS モードでのインストールでは、内蔵デバイスからは起動できないことがあります。

## アクション

1. SD メディアを使用する場合は、UEFI モードを利用します。

## F10 キーを押しても Intelligent Provisioning が起動しない

### 症状

Intelligent Provisioning では、電源投入時セルフテスト (POST) 中にサービス担当者およびお客様が **F10** キーを押すと、最新の SPP を自動的にロードできます。Intelligent Provisioning が期待どおりに起動しない場合は、Intelligent Provisioning の再インストールが必要となる場合があります。

### 原因

現在の Intelligent Provisioning ファイルに問題があります。

## アクション

1. ファームウェアの ISO イメージおよび USB ユーティリティツールを hpe.com からダウンロードします。
2. 起動可能な USB キーを作成して、ISO イメージをコピーします。
3. USB キーを装着し、ユニットの電源を入れます。
4. USB キーから起動するには、**F11** キーを押して、**Option 3: One Time Boot to USB Drive Key** を選択します。
5. システムは USB キーから起動され、IP リカバリをインストールします。

6. インストールが完了したら、ユーティリティは USB キーを削除するように求めるプロンプトを表示します。
7. システムを再起動して F10 キー (IP リカバリ) を押し、IP リカバリが正しく起動されたことを確認します。

## Windows 固有の問題のトラブルシューティング

### Microsoft Hyper-V Server 2012 R2 のインストールに失敗する

#### 症状

SD カードを使用して Microsoft Hyper-V Server 2012 R2 をインストールすると、インストールが失敗します。

#### 原因

Windows メディアは、一部の ProLiant サーバーの高速 USB コントローラーをサポートしていないために、SD メディアから実行できないことがあります。

#### アクション

1. Intelligent Provisioning を使用する代わりに Microsoft のインストールツールを使用して HYPER-V Server 2012 R2 をインストールします。

### Windows のインストールに失敗する

#### 症状

一部の言語で、Windows のインストールプロセスが失敗します。

#### 原因

サポートされていない言語が選択されているため、Windows のインストールプロセスが失敗します。インストールメディアは、選択されている OS 言語をサポートしている必要があります。

#### アクション

1. 選択されている言語が Windows インストールメディアでサポートされていることを確認します。

### インテグレートドマネジメントログ (IML) が生成されない

#### 症状

Windows をインストールした後、インテグレートドマネジメントログ (IML) を表示してもログが生成されず、次のエラーメッセージが表示されます。No system management driver is loaded.

#### 原因

IML ログを表示するには、適切なアクセス権限が必要です。

## アクション

1. 管理者として実行オプションを使用して IML ビューアーを起動します。

## Microsoft Hyper-V Server 2012 のインストールに失敗する

### 症状

Microsoft Hyper-V Server 2012 をインストールしようとする、インストールが失敗して、Unattended settings error というエラーメッセージが表示されます。

### 原因

Windows 2012 OS ファミリと Hyper-V OS が選択されていません。Microsoft Hyper-V Server 2012 をインストールする場合は、これらのオプションを選択する必要があります。

## アクション

1. Windows 2012 OS ファミリと Hyper-V OS を選択します。
2. インストールを再試行します。

## System Management Homepage に情報が表示されない

### 症状

Windows の推奨インストールの実行後、System Management Homepage に情報が表示されません。

### 原因

デフォルトでは AMS のみがインストールされているため、これは予定通りの動作です。

## アクション

1. System Management Homepage に情報を表示するには、WBEM または SNMP エージェントをインストールしてください。

## Linux 固有の問題のトラブルシューティング

### SUSE Linux Enterprise Server 12 の手動インストールに失敗する

#### 症状

サーバーがレガシ BIOS モードのとき、SUSE Linux Enterprise Server 12 および SLES 12 SP1 の手動インストールが失敗します。

#### 原因

SUSE Linux Enterprise Server 12 は、レガシ BIOS モードでの手動インストールをサポートしません。

#### アクション

1. UEFI モードに切り替えてから、インストールを再試行します。

### SUSE Linux Enterprise Server 12 のインストールが停止する

#### 症状

SUSE Linux Enterprise Server 12 をインストールしようとする、インストールプロセスが停止して、次のメッセージが表示されます。

Please make sure your installation medium is available. これは、インストールに Windows ドメイン内のファイルサーバーが関与する場合に発生することがあります。これはレガシ BIOS モードまたは UEFI ブートモードを使用していると発生する可能性があります。

#### 原因

ファイルサーバーが Windows ドメインに含まれています。

#### アクション

1. ファイルサーバーが Windows ドメインに含まれないようにします。代替案として、ディスクインストールを使用してこの問題を回避してください。

## Linux x86\_64 でファームウェアの更新に失敗する

#### 症状

ファームウェアの更新を実行すると、Broadcom Online Upgrade Utility for Linux x86\_64 を更新する更新プロセスが失敗します。

#### 原因

ファームウェアの更新プロセスでは、Broadcom Online Upgrade Utility for Linux x86\_64 の更新はサポートされません。

#### アクション

1. インストールされている OS のファームウェアを更新します。

## Red Hat OS をブラウズできない

#### 症状

Red Hat Enterprise Linux 6 をインストールするときに、**展開設定**プロファイルを保存しながら、Red Hat OS ファイルをブラウズすることができません。

#### 原因

展開設定で Red Hat OS フラットファイルを選択するときに、`This media does not match the selected OS.`というメッセージが表示された場合は、間違った OS ファミリが選択されているか、いくつかの OS ファイルが OS フラットファイルフォルダーに存在しません。

#### アクション

1. 必要なすべての Red Hat OS ファイルが OS フラットファイルフォルダーにあることを確認してください。

## Red Hat Enterprise Linux 6 の推奨インストールを続行できない

#### 症状

Red Hat Enterprise Linux 6 をインストールするときに、FTP ソースメディア経由で、有効な OS イメージを使って推奨されるインストールを進めることができません。

#### 原因

必要な Red Hat OS ファイルがないか、または間違った場所にあります。

## アクション

1. 必要なすべての Red Hat OS ファイルが OS フラットファイルフォルダーにあることを確認します。
2. 2つの TRANS.TBL ファイルが Red Hat OS フラットファイルフォルダーにあることを確認します。1つのファイルはメイン OS ファイルフォルダーに存在し、もう1つのファイルはメイン OS ファイルフォルダー内の Server フォルダーに存在する必要があります。

## Red Hat OS の推奨インストールがハングする

### 症状

FTP ソースメディアによる、Red Hat OS インストールの推奨インストール方式を使用すると、次の問題のいずれかが発生することがあります。

- 再起動中にインストールが異常停止し、The Red Hat Enterprise Linux Server CD was not found というエラーが表示される。
- インストールが異常停止し、Could not allocate requested partitions というエラーが表示される。
- インストールが正常に完了しない。
- OS インストール用のフラットファイルが欠如している場合でも、インストールが正常に完了する。

### 原因

FTP ソースメディアによる Red Hat OS インストールでの推奨インストール方式の使用は、確実には機能しない可能性があります。

## アクション

1. 上記の問題のいずれかを解決するには、DUD を HPE サポートセンターから取得して、Intelligent Provisioning の外部からインストールを実行します。

## レガシ BIOS モードの場合に SUSE Linux Enterprise Server 12 の手動インストールが失敗する

### 症状

レガシ BIOS モードで SUSE Linux Enterprise Server 12 の手動インストールを実行しようとする、ブートローダーエラーでインストールが失敗します。

### 原因

レガシ BIOS モードでの SUSE Linux Enterprise Server 12 の手動インストールはサポートされていません。

## アクション

1. SUSE Linux Enterprise Server 12 をインストールする場合は、UEFI モードを使用します。

## VMware 固有の問題のトラブルシューティング

### ESXi のカスタムインストール中に、続行の矢印が表示されない

#### 症状

ESXi カスタムインストールの OS の情報画面で、続行の矢印が表示されません。

## 原因

ホスト名フィールドに、ホスト名が入力されていません。

## アクション

1. ホスト名フィールドに 3 文字以上が含まれていることを確認してください。

# VMware の推奨インストール中にサーバーが再起動する

## 症状

DVD をソースメディアとして VMware 推奨インストールを実行すると、OS ファイルをコピーした後で、`Press Enter to reboot` というメッセージがサーバーに表示されます。**Enter** キーを押すと、サーバーは、OS を開くのではなく、再度 ESXi インストーラーのロードを開始します。

## 原因

USB が SUT に接続されている場合、HDD にインストールされている VMware OS が連続して再起動します。

## アクション

1. USB デバイスを取り外すと、インストールは続行されます。

# VMware ESXi カスタムイメージのインストール

## 症状

VMware カスタムイメージをインストールできません。

## 原因

VMware ESXi カスタムイメージには、カスタムの HPE ISO が必要です。

## アクション

1. VMware の Web サイト <http://www.hpe.com/info/esxidownload> (英語) から ISO をダウンロードします。

# 複数のコントローラーを搭載するシステムで、VMware ESXi のインストールに失敗する

## 症状

複数のコントローラーを搭載するシステムで VMware ESXi をインストールすると、インストールプロセスがハングします。

## 原因

どちらのコントローラーが選択されているかによって異なりますが、複数のコントローラーを搭載するシステムで VMware ESXi をインストールしているときに、インストールプロセスがインストールループに入り、インストーラーが連続して実行されます。VMware のインストーラーはコントローラーの起動優先順を検出しません。そのため、ユーザーインターフェイスで選択したものと異なるターゲットディスクが選択される場合があり、その結果、連続ループが発生します。



## アクション

1. 一方のコントローラーの接続を切断します。または手動インストールを実行して、正しいディスクを手動で選択できるようにします。

# HPE Synergy 固有の問題のトラブルシューティング

## Intelligent Provisioning で、メンテナンスタスクを実行できない

### 症状

Intelligent Provisioning を使用して、HPE Synergy コンピュートモジュールに以下のメンテナンスタスクのいずれかを実行しようとする、タスクが失敗します。

- Active Health System データのダウンロード
- ファームウェアの更新
- iLO 構成ユーティリティの使用
- HPE Remote Support の使用
- 消去ユーティリティの使用

### 原因

Intelligent Provisioning は、HPE Synergy コンピュートモジュールではこれらのメンテナンスタスクをサポートしていません。

## アクション

1. タスクを実行するには、HPE OneView を使用します。

## リソースを HPE OneView で管理している場合、Intelligent Provisioning を使用した構成を行えない

### 症状

Intelligent Provisioning で、サーバーの構成タスクを実行するための設定が無効です。

### 原因

タスクを実行するには、HPE OneView を使用する必要があります。

## アクション

1. HPE OneView を使用して、サーバーの設定を構成します

## HPE OneView から Intelligent Provisioning を起動できない

### 症状

HPE OneView を使用して Intelligent Provisioning を起動すると、Intelligent Provisioning が必要な時間内に起動できなかったという内容のエラーが表示されます。

### 原因

最新バージョンの Intelligent Provisioning がインストールされていないか、になっています。

## アクション

1. POST 中に **F10** を押して、影響を受けたシステム上で Intelligent Provisioning を手動で起動してみます。
2. Intelligent provisioning を手動で起動できた場合は、この操作を HPE OneView から再度試してください。
3. 手動での起動が引き続き失敗する場合は、iLO を再起動して手順 1 を再度試します。
4. 起動がそれでも失敗する場合は、<http://www.hpe.com/jp/intelligentprovisioning> にある最新バージョンの Intelligent Provisioning をインストールしてください。

## HPE Synergy がネットワーク共有または FTP サーバーに接続できない

### 症状

Intelligent Provisioning 環境設定ページには HPE Synergy コンピュートモジュール上の Ethernet ポートが表示されるが、モジュールがネットワーク共有または FTP サーバーに接続できない。

### アクション

1. HPE Synergy コンピュートモジュールのネットワークを構成するには、HPE OneView を使用します。

## HPE Synergy コンピュートモジュールで、iLO、Erase、IRS、AHSD、およびファームウェアの更新の機能が機能しない

### 症状

HPE Synergy コンピュートモジュールを構成しているが、Intelligent Provisioning で iLO、Erase、IRS、AHSD、およびファームウェアの更新が機能しない。

### アクション

1. これらの機能を構成するには、HPE OneView を使用する必要があります。

## カスタマーアドバイザー

問題解決のためのその他の情報として、次の資料が用意されています。

- How to Install/Reinstall Intelligent Provisioning if It Does Not Launch After Pressing F10 During POST : <http://h20564.www2.hpe.com/portal/site/hpsc/public/kb/docDisplay/?docId=c03693433>
- Windows Installations May Fail on 3 TB Volumes In Some Configurations : <http://h20564.www2.hpe.com/portal/site/hpsc/public/kb/docDisplay/?docId=c03711970>
- Unable to Launch Successfully if More Than 32 Logical Drives Are Created : <http://h20564.www2.hpe.com/portal/site/hpsc/public/kb/docDisplay/?docId=c03686831>
- Installation of SUSE Linux Enterprise Server 12 Halts When Using Intelligent Provisioning on an ProLiant Server In Legacy BIOS Mode: [http://h20564.www2.hpe.com/portal/site/hpsc/public/kb/docDisplay/?docId=emr\\_na-c04565685](http://h20564.www2.hpe.com/portal/site/hpsc/public/kb/docDisplay/?docId=emr_na-c04565685)

## Intelligent Provisioning のリカバリ

複数のサーバーに大量の更新が必要な場合、新しいボードが破損した場合、または NAND エラーが発生した場合は、Intelligent Provisioning リカバリメディアをダウンロードして使用します。複数のシステムの大量の更新は、リカバリメディアのマウントとワンタイムブートを使用して iLO/RIBCL により実行できます。

## 手順

- Intelligent Provisioning のリカバリメディアのダウンロードと再インストールの手順については、**ISO イメージからの再インストール**を参照してください。

# Web サイト

## 全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library

<http://www.hpe.com/info/EIL>

Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス

<http://www.hpe.com/storage/spock>

ストレージのホワイトペーパーおよびアナリストレポート

<http://www.hpe.com/storage/whitepapers>

上記以外の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

## Intelligent Provisioning の Web サイト :

Intelligent Provisioning

<http://www.hpe.com/jp/intelligentprovisioning>

HPE iLO 4

<http://www.hpe.com/jp/servers/ilo>

HPE Active Health System

<http://www.hpe.com/servers/ahs>

HPE Systems Insight Manager

<http://www.hpe.com/jp/hpsim>

Service Pack for ProLiant

<http://www.hpe.com/jp/spp>

Insight Remote Support

<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>

# サポートと他のリソース

## Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

### ご用意いただく情報

- テクニカルサポート登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

## アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

### Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

### Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<http://www.hpe.com/support/downloads>

### Software Depot

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- お客様の資格を確認および更新して、契約および保証をプロフィールにリンクするには、次に示す Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

### ❗ 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

## カスタマーセルフリペア（CSR）

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア（CSR）プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

## リモートサポート（HPE 通報サービス）

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

### リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

#### HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

#### HPE プロアクティブ ケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

#### HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>（英語）

#### HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

## 保証情報

ご使用の製品の保証を確認するには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで入手できるサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照します。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

### 追加保証情報

#### HPE ProLiant と x86 サーバーおよびオプション

<http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

#### HPE エンタープライズサーバー

<http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

#### HPE ストレージ製品

<http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

#### HPE ネットワーク製品

<http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

## 規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

## 規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/environment>

## ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 ([docsfeedback@hpe.com](mailto:docsfeedback@hpe.com)) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

# 用語集

この用語集は、本書で一般的に使用される用語および頭字語の名前と定義を提供します。

## AHS

Active Health System は、1600 を超えるシステムのパラメーターの継続的な予防的な状態監視を提供するテクノロジーです。問題を正確に解決するために構成の変更をログに記録します。Active Health によって収集されるすべての情報は、安全に記録され、オペレーティングシステムから分離し、顧客データから独立しています。

## AMS

Agentless Management Service AMS は、イベントに関する OS 構成情報を収集し、この情報を iLO Active Health System ログに提供するサービスです。

## DDNS

Dynamic DNS

## DHCP

Dynamic Host Configuration Protocol

## HP PSP

ProLiant Support Pack。この製品は、SPP に置き換えられました。

## HP SUM

HP Smart Update Manager HP SUM は、ProLiant サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュール上のファームウェアおよびソフトウェアをインストールして、更新するテクノロジーです。

## HPE SSA

HPE Smart Storage Administrator。HPE SSA は、すべての Smart アレイ製品用の高可用性構成、管理、および診断機能を提供するユーティリティで構成されます。

## HPE USB Key Utility

HPE USB Key Utility は、Intelligent Provisioning の内容の USB フラッシュドライブへのコピーを可能にする Windows アプリケーションです。USB フラッシュドライブにコピーされた Intelligent Provisioning は、CD または DVD からではなく、USB フラッシュドライブから起動できます。

## iLO 仮想メディア

サーバーがローカルデバイスとして認識するようにリムーバブルストレージデバイスやイメージファイルをクライアントマシンからサーバーに接続するための **Integrated Lights-Out (iLO)** の機能。サーバーは仮想デバイスから起動したり、稼働中のオペレーティングシステムで使用したりすることができます。

## Insight Diagnostics

Insight Diagnostics は、プロセッサ、メモリ、およびハードディスクドライブなどのデバイスの重要なハードウェアコンポーネントの徹底したテストを提供し、総合的なオフラインシステムおよびコンポーネントテスト一式を提供します。

## Insight Online

Insight Online は、iLO から自動通報された、サービスイベント情報、デバイスの構成情報、契約および保証情報を、どこからでも表示できる個別化されたダッシュボードに集約するサービスです。



## Insight Remote Support

Insight Remote Support を使用すると、インテリジェントなイベント診断が有効になり、ハードウェアイベントが Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通報されるようになります。これらの通知によって、ダウンタイムが防止され、問題の解決がより早くなります。

## Integrated Lights-Out (iLO)

サーバーをリモートから構成、アップデート、および操作するための複数の方法を提供する、ProLiant サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールに内蔵された独立したマイクロプロセッサ。iLO を使用すると、通常はデータセンター、コンピューター室、または遠隔地にまで出向かなければ実行できなかったほとんどの機能をリモートで実行することができます。<http://www.hpe.com/jp/servers/ilo> を参照してください。

## Intelligent Provisioning

Intelligent Provisioning は、ProLiant Gen8、Gen9、および HPE Synergy コンピュートモジュールに組み込まれた単一サーバー展開ツールであり、ProLiant サーバーの以前の世代で使用されていた SmartStart CD や Smart Update Firmware DVD に代わる機能です。

## POST

Power on self test。電源投入時セルフテスト。POST は、デバイスの電源を入れた後、すぐにファームウェアまたはソフトウェアルーチンによって実行されるプロセスです。ルーチンは、デバイスのブート前シーケンスの一部です。POST が正常に完了すると、ブートストラップローダーコードが起動します。

## RBSU

ROM-Based Setup Utility。ROM ベースセットアップユーティリティ。システム ROM に組み込まれており、UEFI システムユーティリティに含まれている構成ユーティリティ。この構成ユーティリティは、次のような広範囲の構成作業を実行します。

- システム デバイスと取り付けられたオプションの設定
- システム情報の表示
- プライマリ ブート コントローラの選択
- オンラインスペアメモリの構成

## SAN

ストレージエリアネットワーク。統合された、ブロックレベルデータのストレージへのアクセスを提供する専用のネットワーク。

## SNTP

Simple Network Time Protocol。簡易ネットワークタイムプロトコル

## SPP

Windows および Linux ProLiant Support Pack (PSP) は、Service Pack for ProLiant に置き換えられました。SPP は、広範な多くの世代の ProLiant BL/DL/ML/SL/XL 100、300、500、700、および 900 シリーズサーバーを含む、ProLiant サーバー、HPE Synergy コンピュートモジュール、ならびにインフラストラクチャ間でのファームウェア、ドライバー、およびツールを含む包括的なパッケージです。<http://www.hpe.com/jp/spp> を参照してください。

## UEFI

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) は、オペレーティングシステムとプラットフォームファームウェア間のソフトウェアインターフェイスを定義する仕様です。UEFI は、基本入出力システム (BIOS) ファームウェアインターフェイスを交換するものです。

## VID

仮想インストールディスク。

## WBEM

Web-Based Enterprise Management。WBEM は、CIM (Common Information Management) モデルに基づく DMTF (Distributed Management Task Force) 標準です。WBEM により、お客様は、複数のプラットフォームとオペレーティングシステムにまたがるシステムを一貫して管理でき、インフラストラクチャを最適化する統合ソリューションを使用して運用効率を向上できます。WBEM により、管理アプリケーションは、必要な場合はいつでも、システム情報を取得し、システム操作を要求できます。

## WMI

Windows Management Instrumentation (WMI) は、Windows ベースのオペレーティングシステムでの管理データと操作のインフラストラクチャです。

### イメージのインストール

元のサーバーの複製を作るためにディスクのキャプチャーイメージを使用してサーバーをインストールするプロセス。これは、スクリプトインストールと対照になっています。

### エージェント

サーバーに変更を加えるために使用される管理対象サーバー上のソフトウェア。サポートされる機能は、ソフトウェアのインストールと削除、ソフトウェアとハードウェアの構成、サーバーステータスの報告などです。

### エンクロージャー

ブレードサーバーとインターコネクトデバイスを収納するシャーシ。

### キャプチャーイメージ

ファイル、ディスクパーティション情報など、ターゲットサーバーを同じサーバーまたは別のサーバーに完全に作りなおすために必要な、ターゲットサーバーからのすべての情報を含んでいるデータストア。キャプチャーイメージにはパーティションは含まれず、ファイルシステムデータだけが含まれます。イメージインストールも参照してください。

### 構成ファイル

Windows および Linux 自動インストールファイルの総称。これらのファイルは、ユーザーが介入せずにオペレーティングシステムを自動的にインストールするために必要なすべての情報を提供します。BIOS 構成やアレイコントローラー構成などのハードウェア構成ユーティリティにも適用されます。お客様は、固有の用途のために新しい構成を作成できます。

### スクリプトインストール

構成ファイルと OS ディストリビューションファイルを使用して、無人インストールとしてターゲットサーバーに OS を展開する OS プロビジョニング方法。これはオペレーティングシステムをインストールするために OS ベンダーが意図する本来の方法ですが、対話型インストールプロセスが自動化されています。これは、イメージインストールと対照になっています。

### パッケージ

実行可能ファイル、構成情報、およびスクリプトファイルを含むことができる zip 圧縮された単一ファイル。パッケージの例は、無人インストール中に使用される Windows ドライバーの .zip ファイルです。

### プロビジョニング

スクリプトインストールまたはキャプチャーイメージ展開を使用して、ターゲットサーバーにオペレーティングシステムをインストールすること。

### プロビジョニング済み

この状態にあるサーバーには、オペレーティングシステムがインストールされています。

### **未プロビジョニング**

オペレーティングシステムがインストールされるのを待機しているサーバー。

### **無人インストール**

ユーザー介入が不要の自動的な Windows または Linux OS インストール。

### **メディア**

ベンダー提供の OS ディストリビューションファイル、Hewlett Packard Enterprise 提供の OS ディストリビューションファイル、キャプチャーイメージ、およびファームウェアとドライバーの更新 (SPP など) を含むことができるソフトウェア。